明日をひらく地域活性化のための情報誌

地域づくり

本編

2021
5
ISSN 1340-8917



令和２年度ふるさとイベント大賞

本誌は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです

地域づくり　2021-5

CONTENTS

1　巻頭エッセー／新型コロナと闘う 鳥取県からの挑戦　平井伸治（鳥取県知事）

特　集　令和２年度 ふるさとイベント大賞

大賞（内閣総理大臣賞）〈１団体〉　●ジャパンバードフェスティバル2019【千葉県我孫子市】　2
最優秀賞（総務大臣表彰）〈１団体〉　●ファッション甲子園【青森県弘前市】　4
優秀賞〈３団体〉　●全国500歳野球大会【秋田県大仙市】　6　●碓氷峠廃線ウォーク【群馬県安中市】　8
●大川木工まつり【福岡県大川市】　10
ふるさとキラリ賞〈２団体〉　●UNMANNED無人駅の芸術祭／大井川【静岡県島田市】　12
●まちぐるみWedding【山口県光市】　14
選考委員特別賞〈１団体〉　●都城六月灯おかげ祭り【宮崎県都城市】　16

【特集編では大賞・最優秀賞ほか、計30表彰を紹介～特集編のみに掲載される表彰は以下の通り】

●次点
まるごと大鰐秋の感謝祭【青森県大鰐町】
三種ミュージカル「秋田の赤い靴物語」【秋田県三種町】
いわき回転やぐら盆踊り大会【福島県いわき市】
北条海岸BEACHマーケット【千葉県館山市】
灯の回廊【新潟県上越市】
長野デザインウィーク～善光寺表参道イルミネーション【長野県長野市】
峠の国盗り綱引き合戦【静岡県浜松市】
第17回美山かやぶきの里雪灯廊【京都府南丹市】
たるまるカフェ森のコンサート Vol.12【奈良県黒滝村】
松江武者行列【島根県松江市】
住民参加創作ミュージカル「群青～濱田誕生、そして明日へ～」【島根県浜田市】
つやまエリアオープンファクトリー【岡山県津山市】
とびしまウルトラマラニック in せとうち・呉【広島県呉市】
妖怪祭り【徳島県三好市】
瀬戸内かみじまアートプロジェクト2019 防波堤ペインティング【愛媛県上島町】
全国高等学校漫画選手権大会（まんが甲子園）【高知県】
日高メシふぇすてぃばる【高知県日高村】
第31回 とばた菖蒲まつり2019【福岡県北九州市】
TAGAWAコールマイン・フェスティバル～炭坑節まつり～【福岡県田川市】
佐賀さいこう！企画甲子園【佐賀県】
長崎居留地まつり【長崎県長崎市】
結びのまつり～人を想い　土地を想い　神を想う～【宮崎県都農町】

レギュラーリポート

18　移住・定住・交流推進支援事業　福井県若狭町
本物の「ヒト・モノ・コト」の交流と発信　池田和哉
20　2020年度 地方創生セミナー
地方創生×子ども農山漁村交流プロジェクト
21　2020年度 地方創生セミナー
地域を支えるダイバーシティ
22　2020年度 地方創生セミナー
未来と地域を創る教育
23　書籍紹介
24　地域トピックス　群馬県富岡市
富岡市版「市民協働によるまちづくり」　桐生俊史
26　2020年度 国内調査報告
神奈川県横浜市、鎌倉市、長野県
これからの共創のかたち「リビングラボ」
28　首長の思い
「家族の絆」を取り戻す
小林嘉文（岡山県笠岡市長）

グラビア
表3　手前みそですが…　【長野県千曲市】

表紙
大淵笹場

広大な茶園と富士山の眺望を有する大淵笹場。静岡県富士市の北部に位置し、良質な茶を産出する緑豊かな自然環境に恵まれています。2㌶以上に及ぶ茶畑は、茶農家を含む地元住民により組織された「大淵二丁目ささば景観保存会」が主体となって整備に取り組み、美しい景観が保全されています。

この団体は、地域振興活動にも力を入れており、地域住民や来訪者によるにぎわいを創出し、国内外への魅力発信を行っています。

毎年5月に開催される「おおぶちお茶まつり」（※）には、多くの来訪者があり、茶葉の天ぷらや新茶が振る舞われます。近年では国内来訪者のほか、インバウンド客の受け入れも積極的に行い、ボランティアガイドを通じて富士山や茶園、日本文化のPRを行っています。

また、昨年11月には呈茶や休憩などができるテラス「茶の間」が誕生。地元産富士ヒノキを使用したテラスが3カ所に設置され、絶景を眺めながらお茶を楽しむことができます。

（※）今年の「おおぶちお茶まつり」は中止となりました

問い合わせ先＝富士市農政課（0545-55-2781）
（写真提供＝富士市）



人工物が入らない富士山と茶畑の景観を楽しめる

ESSAY

巻頭エッセー

新型コロナと闘う 鳥取県からの挑戦



鳥取県知事 ● 平井　伸治

昨年1月15日。日本初の新型コロナ感染確認。悲劇の幕は音もなく静かに上がった。

直ちに担当部局に指示し、翌日新型コロナ県庁相談窓口を設けるなど、対策を矢継ぎ早に繰り出した。初動を急いだのは「危機感」からだ。高齢化率が高く、感染症病床もわずか12。中国・武漢のような修羅場が起きてからでは遅い。新型インフルエンザの時は、神戸市での初発例後、1カ月たたずに本県最初の患者が出た。

PCR検査については、新型インフルエンザの教訓から県衛生環境研究所で1日120検体まで処理能力を高めていたが、畜産用も転用して60検体分引き上げ、民間検査等も促進して、現在は5600検体の検査が可能となった。人口当たりで全国トップだ。「ドライブスルー方式」の検査は、都道府県で最初に鳥取県が昨年4月に導入した。

国の指導により、当初PCR検査対象は、37・5度以上の発熱等の「症例」に合う者や、15分以上陽性者と行動を共にした「濃厚接触者」等に限定する厳格な運用がなされてきた。しかし、これでは無症状も含め陽性者を見つけ出せない。鳥取県では、昨年2月に、医師が必要と認める人は、症状の有無や海外・県外渡航歴に関係なく、幅広くPCR検査を実施する「積極的PCR検査」へと舵を切った。

昨年2月、医療界との対策会議で病床確保や院内感染防止の協力要請をした際、医療界から当時不足していたマスクを所望された。県備蓄のほぼ全量23万枚のマスクを医師会に渡したのだが、この「捨て身」の姿勢に応えてくださり、受け入れ病床については現在321床確保でき、診療・検査医療機関についても医療機関の9割が対応している。両者とも人口比全国最多だ。

さらに、「早期検査・早期入院・早期治療」を県独自の新型コロナ対策とした。いわば「鳥取方式」だ。鳥取県のように即日幅広く検査すれば、結果的には陽性者の発生を抑制し病床負担も軽くなる。入院で感染拡大も封じ、医療ケアで命も守る。検査や患者・陽性者の個々の状況も私自身常時フォローし、保健所長や病院等と話し合う。人口最少の鳥取県は、むしろ小回りと絆を活かし、命と健康を守る。

県独自に「クラスター対策条例」も制定した。新型コロナはクラスターで爆発的に広がる。これが特徴で、急所でもある。県民・事業者・市町村にも協力を仰ぎクラスターを予防するとともに、発生時はそこを起点として感染が一気に拡大しないよう迅速な措置をとれる規定を設けた。権利制限は必要最小限に抑制し、当時問題が顕在化してきた患者や医療従事者、さらには店も含めた誹謗中傷対策も規定した。8月25日の臨時議会で、蔓延防止のための知事の「指示」を「勧告」にするなどの修正を経て全員一致で可決、成立した。この条例が本県の対策に役立った。

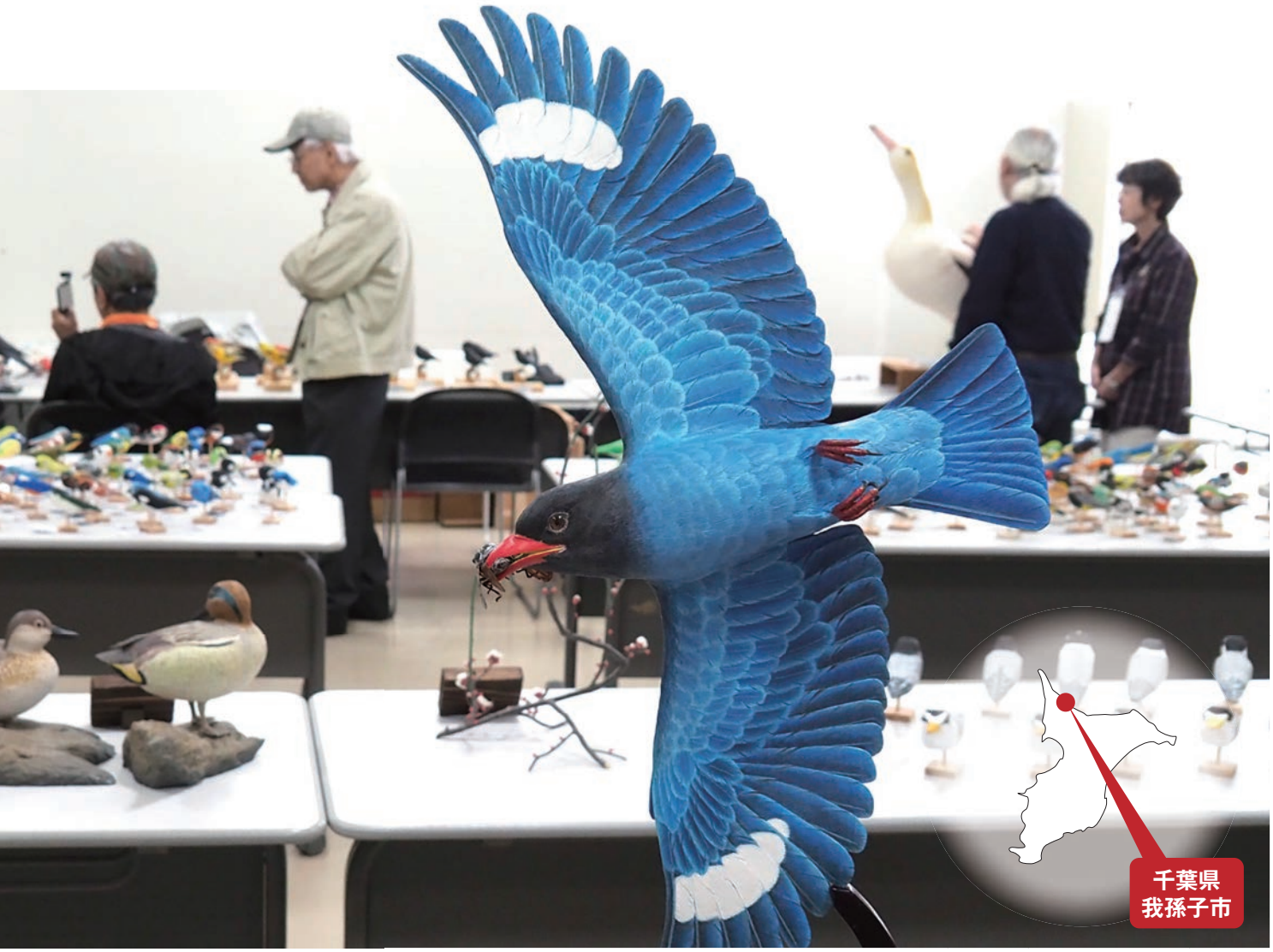
第三波は、第一波・第二波とは比較にならない怒濤のような厳しい「修羅場」だった。特に年末年始はすさまじく、飲食店クラスター2件を核とした集団感染は合計39人に及んだが、その封じ込めに実に500件近くのPCR検査を展開した。手早く感染ルートを追い、ローラー作戦でPCR検査を展開し、10日ほどで感染の波に追いつき、その後は囲い込んだ範囲内での陽性発生になってきた。クラスターを閉じることができたが、大都市等ではこのように手早く囲い込めず、市中感染を招いているのではないか。本県では「鳥取方式」で素早く「PCR＋入院」を実行し、県民や医療関係者等と総がかりで、累計感染者数全国最少を実現した。

高齢化が進み、医療資源が充実しているとは言えない鳥取県。悪条件が重なるが、小さい県だからこそ、皆で心ひとつに新型コロナに挑み続ける。

「咳をしても一人」

鳥取出身の俳人・尾崎放哉が、肺の病気に苦しみ人生の終焉に詠んだ句だ。鳥取県では、咳をしても「一人」にはさせない。そういう「孤独」は絶対につくるまい。

（令和3年3月末日）







評価のポイント

●鳥をテーマにしたイベントでは来場者数、出展数ともに国内で最大級。
●鳥をテーマにした国際的なつながりがあり、大人のみならず子供にも興味を湧かせることができるなど、広がりのあるイベントになっている。
●鳥や自然環境についての調査研究・保全・啓発活動を行っている団体・学生・企業とも連携しており、地域の交流が生まれているほか、環境保全意識の向上に寄与している。
●どこで始めてもおかしくない、ある意味では普遍的なテーマであるだけに、それを企画し、続けた人たちの努力は大変なものだと想像できる。

次回開催日程

■開 催 日：令和3年11月6日（土）、7日（日）
■開催場所：手賀沼親水広場、我孫子市生涯学習センター、鳥の博物館、山階鳥類研究所等
■問い合わせ先
・団 体 名　ジャパンバードフェスティバル実行委員会（事務局）
・住　　所　〒270-1146 千葉県我孫子市高野山新田193 水の館 我孫子市環境経済部 手賀沼課内
・電話番号　04-7185-1484　・FAX　04-7185-5869　・URL　http://www.birdfesta.net/

大賞

第25回
ふるさとイベント大賞

内閣総理大臣賞

ジャパンバードフェスティバル2019

千葉県の北西部に位置する我孫子市。その南側に接する手賀沼は、都心に最も近い天然湖沼であり、市民の憩いの場となっています。緑と水が織り成すこの地域にはいろいろな生きものが生息しており、特に冬になると多くの渡り鳥が飛来するため、バードウォッチャーでにぎわいます。また、市内には国内唯一の鳥を専門とした「鳥の博物館」や、秋篠宮文仁親王が総裁を務め、全国でも名高い「山階鳥類研究所」といった機関も所在しています。

「ジャパンバードフェスティバル（JBF）」は産官民が協同で実施するイベントとして2001年にスタートしました。今では11月の第一土曜・日曜日に開催され、2日間で延べ約4万人が来場する国内でも最大級の鳥の祭典となっています。

当日は、野鳥団体による活動報告ブースのほか、野鳥観察・撮影に欠かせない光学機器の最新モデルを体験できるブース、鳥をモデルにしたグッズの販売など魅力的な出展が目白押しです。首都圏はもちろん北海道や小笠原諸島といった国内遠方からも出展があります。

また、2015年からは海外の団体も出展しており、2019年は台湾、モンゴル、フィリピン、グアテマラ、ミャンマー、タイ、コスタリカの野鳥団体が参加し、日本では見られない野鳥やその国の風土、文化について交流できる場となりました。

さらに、2010年に始まった「全日本鳥フォトコンテスト」では、全国各地から1000点もの魅力ある鳥の写真が寄せられ、その中からグランプリとして文部科学大臣賞と環境大臣賞が授与されます。

このほか、バードウォッチングやバードペインティング、スタンプラリー、鳥型のたこ揚げといった参加型のブースもあり、特設ステージはライブやトーク、じゃんけん大会、クイズ大会で盛り上がるなど、あらゆる方が楽しめるイベントとなっています。

主催者メッセージ



JBFには、野鳥に関する活動をしている団体のブース、野鳥観察に欠かせない光学機器の展示、鳥グッズのブースなどが数多く並びます。また、鳥の専門家による講演や全国から集まった野鳥写真のコンテストなど、鳥が好きな方もそうでない方も楽しめる、魅力がつまった祭典です。

ジャパンバードフェスティバル
実行委員会 実行委員長
（公財）山階鳥類研究所長
奥野 卓司さん





開催DATA

自治体名	千葉県我孫子市
自治体人口	130,458人 ※R2.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	ジャパンバードフェスティバル実行委員会
開催回数	19回
開催日	令和元年11月2日（土）、3日（日）
開催場所	手賀沼親水広場、我孫子市生涯学習センター、鳥の博物館、山階鳥類研究所　等
観客数	約40,000人









評価のポイント

●高校生の創造力やデザイン力の向上、チャレンジ精神の育成に大きく寄与している。
●全国でも珍しい地域活性化イベントとして青森県のイメージアップに貢献するとともに、高校生を対象とした斬新な取り組みは国内外のファッション関係企業等から支持・支援を受け、さらに地域においても、大会開催で培われた国内ファッション関係者との人脈を活かしたアパレル産業活性化に係る独自の取り組みが展開されている。
●どこで始めてもおかしくない、ある意味では普遍的なテーマであるだけに、それを企画し、続けた人たちの努力は大変なものだと想像できる。

次回開催日程

■開 催 日：令和3年8月22日
■開催場所：弘前市民会館
■問い合わせ先
・団 体 名　ファッション甲子園実行委員会
・住　　所　〒036-8567 青森県弘前市上鞘師町18-1
・電話番号　0172-33-4111　・URL　http://www.f-koshien.com/

最優秀賞

第25回
ふるさとイベント大賞

総務大臣表彰

ファッション甲子園

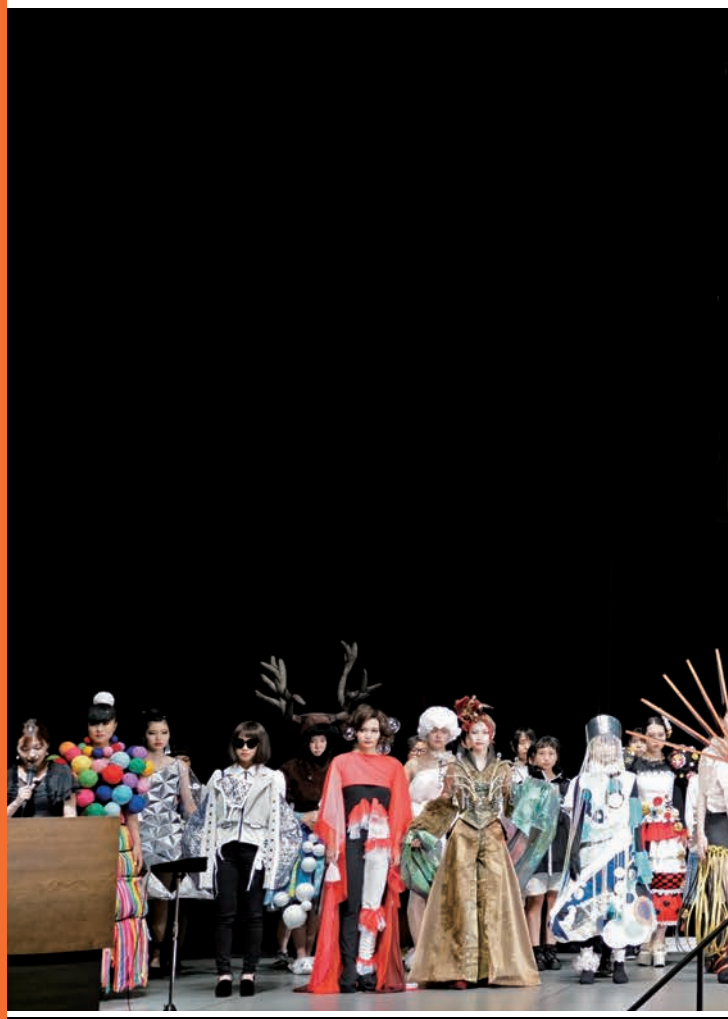
「全国高等学校ファッションデザイン選手権大会（ファッション甲子園）」は、21世紀のファッション界を担う人材の発掘や、若者の夢の創造をねらいとして開催している、高校生による高校生のためのファッションコンテストです。服飾やデザインを専攻する高校生にとどまらず、普通高校や農業高校、総合高校、特別支援学校の生徒まで幅広い層が参加しています。

同一高校に在籍する生徒3人以内1組でチームを編成し、デザイン画を応募。毎年5月下旬に実施する1次審査（デザイン画による書類選考）で、最終審査会に進出する作品（35点以内）を決定します。1次審査を通過したチームは、8月に開催される最終審査会までにデザイン画をもとにした衣装を制作します。青森県弘前市で開催される最終審査会当日は、チームメンバーの1人がモデルとして制作した衣装を着用し、公開ファッションショー形式の審査で各賞を決定します。

優勝チームには副賞としてファッションの本場フランス・パリでの研修旅行を贈呈。準優勝・第3位チームは東京都で開催される「ファッション・ウィーク東京」へ招待し、高校生のうちから世界のファッションと触れ合う機会を創出しています。なお、第19回大会優勝チーム、準優勝・第3位チームの研修旅行などはすべて、新型コロナウィルス感染症流行の影響により延期となっています。

ファッション甲子園2019（第19回大会）には27都道府県から33校34チームが参加。デザイン画の応募総数は2771枚に上り、最終審査会出場を果たした作品数は34作品でした。

大会の出場者の中には、現在デザイナーとして活躍されている方や、大会出場を契機に服飾系の学校へ進学された方もおり、若者の人材育成・夢を実現するための一助を担う大会として毎年開催しています。





主催者メッセージ

ファッション甲子園は、衣装のデザインから制作、最終審査会当日のモデルまで高校生が務める、高校生による高校生のためのファッションコンテストです。高校生ならではの情熱やみずみずしい感性が存分に発揮される舞台をぜひご覧ください。



ファッション甲子園
実行委員会事務局
吉澤 佳苗さん

開催DATA

自治体名	青森県弘前市
自治体人口	168,702人 ※R2.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	ファッション甲子園実行委員会
開催回数	19回
開催日	令和元年8月25日
開催場所	弘前市民会館
観客数	920人



評価のポイント

●県内でも盛り上がりをみせており、高齢者の健康づくりや長寿社会に大きな役割を果たしている。
●全国大会に発展したことで県外各地から多数のチームが参加し、チーム同士の交流が図られたほか、大会後に大仙市内の観光地を訪れるなど、経済的な波及効果にもつながっている。
●県外チームに小学生が特製幟旗をプレゼントしており、作成時に出場チームの地域などを調査するため、社会的学習の機会にもなっている。

次回開催日程

■開 催 日：令和3年7月17日（土）～ 19日（月）予定
■開催場所：大仙市総合公園野球場（大曲球場）他5会場
■問い合わせ先
・団 体 名　500歳・550歳野球大会実行委員会
・住　　所　〒014-8601 秋田県大仙市大曲上栄町2-16
・電話番号　0187-63-1111　・URL　https://www.city.daisen.lg.jp/

優秀賞

第25回
ふるさとイベント大賞

全国500歳野球大会

秋田県大仙市は平成17年3月、1市6町1村の合併により発足し、日本最高峰といわれる全国花火競技大会「大曲の花火」や国指定重要無形民俗文化財「刈和野の大綱引き」をはじめとする行祭事、国指定名勝「旧池田氏庭園」や国指定史跡「払田柵跡」等の史跡・文化財など、多種多様な観光資源を有しています。

当市の神岡地域（旧神岡町）は、秋田県における少年野球発祥の地として知られ、市内全域で年齢を問わず野球が盛んです。「全県500歳野球大会」は、昭和54年に8チーム130人がこの地に集って第1回大会を開催しました。

出場選手9人の合計年齢が常に500歳以上で、一度退いた選手でも同じ打順であれば再登場できるなどの独自ルールで行われており、実績のない中高齢者でも無理なく適正なポジションでプレーすることが可能です。このため、平成28年の第38回大会では全県から184チーム4700人が参加し、歴史と権威あるマンモス大会に成長しています。

第1回大会は、平成29年に「野球に燃える親父たちの甲子園」のキャッチフレーズのもと、全国展開を目的として開催されました。令和元年に開催した第3回大会では県外の出場チームも増え、北は北海道、南は宮崎県のチームが参加して熱戦を繰り広げました。

初日に敗退してしまっても、翌日は当市内の500歳チームと交流戦を行うことができるのも一つの魅力です。独自ルールを熟知した500歳チームと試合を行うことで、戦略を学んだり戦力を強化したりと、次年度大会に向けた準備を行うことができます。

大会期間中のホスピタリティにも力を入れており、県外のチームには500歳野球を知り尽くした市職員を1人、チームサポーターとして配置することで、試合中のルール解説はもちろん、市内飲食店やお土産の情報提供など、様々な面からチームをサポートしています。

主催者メッセージ



「500歳野球大会」は年齢に関係なく、誰もが活躍できる大会です。珍プレーにクスッとしたかと思えば、プロ野球選手さながらのファインプレーに息をのんだりと、見ている方もつい力が入ってしまいます。全国の「野球に燃える親父」の参加をぜひお待ちしております！

500歳・550歳野球大会
実行委員会　実行委員長
赤石 昌之







開催DATA

自治体名	秋田県大仙市
自治体人口	80,459人 ※R2.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	大仙市･秋田魁新報社 （500歳･550歳野球大会実行委員会）
開催回数	3回
開催日	令和元年7月13日（土）～15日（月）
開催場所	大仙市総合公園野球場（大曲球場） 他5会場
観客数	約1,300人







評価のポイント

●廃線となった線路を地域資源と捉え、観光に活かしている。鉄道の衰退の中で、鉄道が持っていた人々の記憶を呼び戻させるものである。
●地域、観光、経済各団体と連携した地域づくりを進めることにより、地域の稼ぐ力を創出することに寄与している。
●新型コロナウイルスの影響により、VR映像を活用したコンテンツを提供。普段は立ち入ることができないトンネル内や360度の景色を楽しむことができ、緊急事態宣言下で外出ができない中、十分ファンを楽しませた。

次回開催日程

■開 催 日：定期開催のためウェブサイトをご確認ください
■開催場所：信越本線　横川―軽井沢区間　廃線跡
■問い合わせ先
・団 体 名　（一社）安中市観光機構
・住　　所　〒379-0222 群馬県安中市松井田町横川441-6
・電話番号　027-329-6203　・URL　https://haisen-walk.com/

優秀賞

第25回
ふるさとイベント大賞

碓氷峠
廃線ウォーク

一般社団法人安中市観光機構と地域住民たちとで実施した「地域観光を考えるワークショップ」の中で出たアイデアが形になった企画が「廃線ウォーク」です。国重要文化財である碓氷第三橋梁（通称「めがね橋」）や旧丸山変電所、旧熊ノ平変電所などの「旧碓氷峠鉄道遺産群」の知名度の高まりから、「碓氷峠にもう一度スポットライトを当てたい」「『鉄道で栄えたまち』を悲しい記憶のまま、次世代につなぎたくはない」という地域の思いは一層高まっていました。

廃線ウォークは、20年以上も前に廃線となった信越本線新線の横川ー軽井沢区間を特別開放して、ウォーキングを楽しむことができるようにした観光コンテンツです。ヘルメットとヘッドライトを着用して、今なお残る廃線跡や鉄道設備、国立公園内の大自然を舞台に進めば「ここでしかできない冒険」ができます。

廃線後、活用されていなかった当該廃線路を安中市の観光地域づくりを担う安中市観光機構が着地型観光コンテンツとして整備しました。

ファミリーから鉄道ファン、しっかり歩きたい方など、さまざまなニーズに応えられるコースが設定可能となっています。 また、廃線ウォークをさらに魅力的にするための取り組みとして、鉄道往来時の原風景を取り戻す活動や雑木の伐採などの環境整備、当時使用されていた信号機などの鉄道設備の復活を実施しました。こうした取り組みにより、「活きた廃線」として参加者の満足度向上に努めています。

「横川のまちに汽笛は鳴り止まない」をキャッチコピーに、廃線を歩くイベントの企画や映像制作を行っています。

主催者メッセージ



見どころは標高差553メートルの信越本線 横川-軽井沢区間11.2キロすべて。現在まで残る鉄道設備も、列車往来時に投げ捨てられたであろう空き缶も、峠越えを支えた先人の刻苦の歴史も、日本一の急勾配として鉄道ファンから愛された記憶もすべて人がつくってきたものです。イベントを通して「峠の鉄道の歴史は人の歴史だった」ことを伝えています。

（一社）安中市観光機構事
業部 廃線ウォーク企画担当
上原 将太さん







開催DATA

自治体名	群馬県安中市
自治体人口	56,706人 ※R2.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	（一社）安中市観光機構
開催回数	81回 ※R2.6.30時点（135回 ※R2.12末現在）
開催日	SLぐんまよこかわ運行日に合わせて開催のほか、月3回ほど開催（新緑・紅葉シーズンは開催増）
開催場所	信越本線横川ー軽井沢区間 廃線跡
観客数	1回50人程度 累計1,900人 ※R2.6.30時点（2,900人 ※R2.12末現在）







評価のポイント

●家具メーカー約200社による家具等の展示販売をはじめ、大川家具の職人の技術とセンスが詰まったネコ家具などを展示し、職人の技術の高さを一般消費者に発信している。
●リピーターも多く、来場者が過去最高の20万人を達成した。
●産業祭部の売り上げが約1億9200万円と過去最高を記録。
●展示販売だけでなく、親子木工教室、小学生木工工作展、高校生作品展などを実施し、伝統継承と次世代育成にも尽力している。

次回開催日程

■開 催 日：令和3年10月9日（土）10日（日）の予定
（本来は3日間開催ですが、「スポーツの日」が7月になる令和3年は2日間に）
■開催場所：大川産業会館・大川中央公園　他
■問い合わせ先
・団 体 名　大川木工まつり実行委員会事務局
・住　　所　〒831-8601
・電話番号　0944-85-5582　・URL　okwinterior@city.okawa.lg.jp

優秀賞

第25回
ふるさとイベント大賞

大川木工まつり

全国有数の家具生産地である福岡県大川市は、筑後川の下流に位置し、約480年前、上流の木材がいかだにして運ばれ、木工の祖・榎津久米之介が船大工の技術を活かして指物（家具）を始めたことが、家具生産の起源といわれています。

「大川木工まつり」は昭和24年、榎津久米之介の400年忌を記念して開かれたのが始まりで、令和元年に第70回を迎え、大川市最大のイベントとなっています。期間中は、家具メーカー約200社による展示販売をはじめ、全国建具展示会受賞作品や大川家具職人の技術とセンスが詰まった「ネコ家具（ネコ用の家具）」などを展示し、「大川職人メイド」の技術の高さを一般消費者に発信しています。親子木工教室、小学生木工工作展、高校生作品展なども実施し、伝統継承と次世代育成にも尽力しています。

また、伝統工芸品も数多く残っており、その中でも大川総桐タンス、大川彫刻、大川組子、掛川は福岡県特産工芸品に指定されています。この大川組子に興味を持ってもらうため、コースター製作体験や組子ラケットを使用した木卓球も行っています。

他にも、大川が誇る作曲家、古賀政男先生が作曲され、市内小学校で習う木工音頭「大川よかたい」での市民総踊りや、椅子製作などの木工体験、丸太引き競争などの体力系イベント、屋台フリーマーケット、ステージイベント、パレードなど、来場者が見て、食べて、体験して木工まつりの魅力を感じることができるイベントを展開しています。

まつり前日には願蓮寺で大川木工の祖、中興の祖、現代家具の祖の報恩供養と、約1800年前に創建された風浪宮本殿でインテリア産業の振興発展とまつりの盛会を祈願する神事が行われます。

木工まつりには大川市内外からたくさんの方に来場してもらっており、リピーターも多く、令和元年は来場者が過去最高の20万人を記録しました。今後も全国に元気を届けられるよう、未来につながるまつりを開催します。

主催者メッセージ



家具産地大川ならではの品ぞろえと、職人の技を感じられる伝統工芸品や家具の展示販売、大川組子コースター製作など人気の木工体験、屋台フリーマーケット、ステージイベント、パレードなどで一日中楽しめます。ものづくりを通して夢と感動を与える取り組みがまつりの魅力となり、多くの来場者から「また来たい」とのお声をいただいております。

大川木工まつり実行委員会　実行本部長
大川商工会議所会頭
津村 洋一郎さん





開催DATA

自治体名	福岡県大川市
自治体人口	33,376人 ※R2.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	大川木工まつり実行委員会
開催回数	70回
開催日	毎年10月のスポーツの日を最終日とする3日間
開催場所	大川産業会館・大川中央公園　他
観客数	約200,000人



評価のポイント

●「無人駅」という場を地域資源と捉え、アートの視点で地域の魅力を掘り起こしている。
●国内外で活躍する複数のアーティストが滞在し、無人駅とそこから広がる集落の資源に焦点を当てた作品や、地域の人々と一体となった体験型の作品を展開。
●作品表現や来訪者との交流により、地域への誇りを持つことにつながっている。

次回開催日程

■開 催 日：令和4年3月開催予定
■開催場所：大井川鐵道無人駅とその集落
■問い合わせ先
・団 体 名　NPO法人クロスメディアしまだ
・住　　所　〒427-0029 静岡県島田市日之出町2-3
・電話番号　0547-35-0018　・URL　http://unmanned.jp/

ふるさとキラリ賞

第25回
ふるさとイベント大賞

選考委員会表彰

UNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川

本プロジェクトは、「無人」と呼ばれるエリアにおける、アートを手法とした地域再生の取り組みです。アーティストが地域資源や人々の魅力、時には課題をも顕在化させ、無人駅を核とした集落に息づく「記憶」「風景」「営み」を掘り起こし表現することで、様々な交流や関係を生み出すことを目的としています。無人駅という時代の流れに打ち捨てられたような場に、アートを手法にスポットを当てる逆転の発想で、息づく景色や人々の生活を再発見します。参加住民は共に作業を行うことで新たなつながりを生み、地元への誇りや愛着の醸成となります。集落および制作過程では、高齢者が自らの知識や経験を伝え、生きがいづくりの一助となります。

来訪者は、作品を通して地域を再発見します。地域全体ではヒト・モノ・コトの掘り起こしと再編集、発信を通じた交流人口拡大や、これまで観光資源とは認識されてこなかった場所が今後、注目される可能性を含んでいます。

平成29年度から始め、令和2年3月に3回目の開催を迎えました。「無人駅がひらくと地域がひらく」がテーマで、大井川鐵道の無人駅6駅と、三つの集落周辺が舞台になりました。

プロジェクトは、「掘り起こす」「あらわす」「共にひらく」の三つのフェーズに即し実施しています。「掘り起こす」では、集落の文化や暮らし、景色を、アーティストが滞在してリサーチを行いアーカイブさせます。「あらわす」はアーティストが作品として表現する一連の取り組みです。制作にあたっては、集落の住民をはじめ、内外のボランティアなどの関わりを重視しています。「共にひらく」では、3月に「無人駅の芸術祭」を行います。来訪者に対し作品表現を核として、集落の人々やエリアが新しい魅力あるものとして開いています。

また、美術館のない島田市と川根本町では、この取り組みが文化芸術のアウトリーチとして機能しているとともに、芸術祭を核として住民の関わりが強固になっている集落の増加も顕著です。

主催者メッセージ

美しい景色や人の営みだけでなく、集落に愛されている地蔵尊や、だいだらぼっち伝説、河童など、様々なテーマを16組のアーティストが多彩に表現しています。またコロナ禍を受けた「Unmanned Stand Project」として、無人でありながら人の交流や気配を感じられるアートプロジェクトも。少し早い春の大井川鐵道無人駅と集落を楽しみにぜひお越しください。



NPO法人クロスメディアしまだ
理事長
大石 歩真さん

事務局長
兒玉 絵美さん







開催DATA

自治体名	静岡県島田市、川根本町
自治体人口	98,282人（島田市） ※R2.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	NPO法人クロスメディアしまだ
開催回数	3回
開催日	令和2年3月6日（金）～3月22日（日）
開催場所	大井川鐵道無人駅とその集落
観客数	約10,000人







評価のポイント

●イベントの飾り付けや演奏は子どもたちが行っており、会場の装飾作成には小学生約1000人が携わっている。
●企画から運営まで、その人材や資源の9割以上を地元で賄っている。
●主役となる新郎新婦の定住意識を高めることを促進するのはもとより、光市の「人のやさしさや温かさ」を「結婚式」というツールを使って「まちぐるみ」で体現することで、まちへの愛着感の醸成につながっている。

次回開催日程

■開 催 日：未定
■開催場所：未定
■問い合わせ先
・団 体 名　山口県光市
・住　　所　〒743-8501 山口県光市中央六丁目1番1号
・電話番号　0833-72-1409　・URL　https://www.city.hikari.lg.jp/

ふるさとキラリ賞

第25回
ふるさとイベント大賞

選考委員会表彰

まちぐるみWedding

平成29年度から、毎年1組の新婚カップル（基本的に婚姻届提出後1年以内）を募集し、「まちぐるみ」でお祝いしています。

主役となる新郎新婦の定住につなげることはもとより、本市の「人のやさしさや温かさ」を「結婚式」というツールを使ってまち全体で体現し、市民をはじめすべての参加者にまちへの愛着心を高めてもらうことを目的としています。

1回目の平成29年度は、光市役所の庁舎を活用して開催し、120人が参加。翌年度の2回目は、「日本の渚百選」に選ばれている「室積海岸」を舞台に開催し、200人が参加しました。

3年目となった今回は、地域資源と交通結節機関・住宅街・自然環境がコンパクトにまとまった「住みよさ」をPRするため、まちの玄関口となるJR光駅と、駅から徒歩5分の位置にあり、約2．4㌔㎡にわたって白砂青松が続く「虹ケ浜海岸」をメイン会場としました。まちの日常とは異なった表情や雰囲気を醸し出すことで、一層の観光PRにつなげるとともに、その強いインパクトによりまちの知名度向上を図りました。

今回の開催にあたっては、光駅を所管するJR西日本に協力していただき、市内の小学生約1000人には会場に飾る「ガーランド」を作成してもらいました。このほか、当日の演奏や歌、お祝いのイベントには市内の幼稚園や中学校吹奏楽部、市民団体の皆さんが関わっており、まさに「まちぐるみでのお祝い」になりました。

なお、イベントの認知度が上がった今回は、テレビ局が開催準備段階から密着取材を行い全国放送したため、まちの知名度アップに大きな効果がありました。

参加者は1年目から増加し続けており、地域住民との関わりも強くなっています。行政と市民団体、そして市民の力により、本事業は光市のシティプロモーションの代表的なものとなっています。

主催者メッセージ



「まちぐるみWedding」は、“会ったことも、見たこともない人の結婚式に列席する”というイベントです。お祝いに駆け付けて、一緒に歌い、踊ってくださる市民の皆様の“おせっかい”な人柄に支えられています。ぜひ、本市の豊かな自然とともに、楽しんで列席されている方々の表情を見ていただきたいです。

山口県光市政策企画部
広報・シティプロモーション推進室
広報・シティプロモーション推進係
村上 裕二さん





開催DATA

自治体名	山口県光市
自治体人口	50,431人 ※R2.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	光市おせっかいプロジェクトチーム
開催回数	3回
開催日	令和元年10月20日
開催場所	光駅、虹ケ浜海岸
観客数	600人（列席者）



評価のポイント

●商店街の謝恩イベントの廃止を契機に、地域コミュニティの再生手段として始まったイベント。
●開始当時は20人程度だったが、今では1500人が参加。
●見物客も3万5000人に増えている。
●祭り普及に関する文化活動等の一環として、小中学校開催の「ふるさと学習」への派遣など、後継者の育成にも注力している。

次回開催日程

■開 催 日：令和3年7月8日（木）・9日（金）の予定
■開催場所：宮崎県都城市内　主会場・神柱宮境内
■問い合わせ先
・団 体 名　おかげ祭り振興会
・住　　所　〒885-0025 宮崎県都城市前田町1345-19
・電話番号　0986-21-4835　・URL　http://www.okagematsuri.jp/

選考委員特別賞

第25回 ふるさとイベント大賞

選考委員会委員長表彰

都城六月灯 おかげ祭り

都城市は宮崎県の南西部、霧島連山の麓に広がる都城盆地の中にあり、自然と豊かな食資源、そして島津家発祥の地という文化に恵まれた都市です。

「おかげ祭り」は平成5年、希薄化する地域コミュニティを再生するため、伝統ある日本の祭りの仕組みや本質に学ぼうと始まり、祭りの厳格な秩序の中で人づくりや地域の絆・連帯感の醸成に取り組んでいます。また、自助・共助のまちづくりを推進し、年齢や立場を超えた世代が祭りを通して地域との密接な関係をつくり、「おかげさま」「お互いさま」と言える共生社会の再生を目指しています。

都城盆地では、旧薩摩藩領に伝わる旧暦6月に開催される夏祭りを「六月灯」と呼び、おかげ祭りも神柱宮の六月灯に合わせて催されます。毎年7月8、9日の2日間の日程で行われ、年を追うごとに参加者の輪が広がり、現在では市内外から1500人超が参加しています。

祭りの行事日程は5月に始まります。立ち上げ儀式である「伴纏合せ」から祭り前日の「大灯籠山車組み上げ」まで、およそ2カ月の間に8回もの儀式が組み込まれています。祭りの準備や稽古の工程を儀式化することで、次の世代にも互いに助け合って生活していくことの大切さを厳格な秩序の中で伝え、そこに参加する意味と誇りを醸成し、郷土愛を育くみます。

7月8日の「宵祭り」には、中心市街地の目抜き通りで、明かりをともした十数基の大灯籠山車が引かれる「献灯祭」があり、翌9日が「本祭り」です。夕刻からJR都城駅前広場にて「出立式」を行ったのち、笛や太鼓の囃子方を先頭に「跳人」と呼ばれる踊り手を連ねた御輿が、神柱宮を目指して勇壮に練り歩きます。祭り当日は3万5000人ともいわれる人出でにぎわいます。

主催者メッセージ



「宵祭り」では、中心市街地の目抜き通りを明かりをともした十数基の大灯籠山車が引かれる「献灯祭」が行われます。翌、「本祭り」では、夕刻からJR都城駅前の市街地沿道を笛や太鼓のお囃子を先頭に御輿が勇壮に練り歩く「宮入巡行」が行われ、宮入では、御輿の練り合いが繰り広げられ熱気は最高潮に達し、祭りのフィナーレを迎えます。

おかげ祭り振興会 会長
川本 翰治さん







開催DATA

自治体名	宮崎県都城市
自治体人口	163,616人 ※R2.12月1日現在の住民基本台帳人口
主催団体	おかげ祭り振興会
開催回数	29回
開催日	毎年7月8、9日
開催場所	宮崎県都城市内 主会場 神柱宮境内
観客数	約35,000人

移住・定住・交流推進支援事業

（福井県若狭町）

本物の「ヒト・モノ・コト」の交流と発信

―鯖街道マルシェで宿場町がよみがえる―



福井県若狭町政策推進課 ● 池田 和哉

都市から地方への移住・交流は、人口減少社会における地域活性化策の柱として期待される。地域活性化センターでは、「移住・定住・交流推進支援事業」として、地域団体もしくは市町村等が自主的・主体的に実施する、都市住民などを受け入れる事業を支援している。

今回、令和2年度に同事業を活用した福井県若狭町の「WAKASAではじまる。鯖（さば）街道マルシェで微住・交流推進事業」について、同町政策推進課の池田和哉氏にご紹介いただいた。（企画グループ）

若狭町の紹介

若狭町は福井県の南西部に位置し、農業・漁業・観光業を主要産業とする人口1万4400人の小さな町です。古代、「若狭」は朝廷に食料を献上する「御食国（みけつくに）」として栄え、江戸時代には鯖を京へと運んだことから、このルートを「鯖街道」と称しました。「京は遠ても十八里」と言われるようにもなり、京都市まで車で約1時間半と近いことから、今も京都の文化に影響されています。

また、若狭湾国定公園を代表する景勝地「三方五湖」はラムサール条約に登録され、日本農業遺産にも認定されています。レインボーライン山頂から眺める神秘の三方五湖と日本海の絶景を求め、多くの観光客が訪れます。

取り組みの背景

町の南部、滋賀県境に接し、鯖街道の宿場町として栄えた「熊川宿」は、往時の町並みを今に残し、平成8年に国の重要伝統建造物群保存地区に指定、平成27年には日本遺産に認定され、年間約49万人の観光客が訪れています。昭和50年代から、地域住民による町並みの保存活動や地域活性化の取り組みが進められてきましたが、近年は高齢化が進み、後継者不足も顕著になり、宿場内の空き家も約40軒に上るなど、これまでの住民活動の継続が危機的な状況になってきています。

そのような中、熊川宿では近年、都市住民による古民家を活用したシェアオフィスやカフェなどが開設され始め、地域に新しい風が吹き、新たな力が連鎖的に芽生えました。

この動きを契機として、熊川宿を中心に都市住民と地域住民との交流を拡大し、新たな視点・力によるまちづくりを展開。その中で、地域住民・若者のビジネス活動を促進し、若者が活躍できる機運を醸成することにより、次世代の定住人口、関係人口の増加を図るため本事業に取り組みました。



にぎわう熊川宿

取り組みのポイント

⑴地域住民×都市住民のチームづくり

若狭町では、町の総合計画において「次世代の活動環境を創造する」を基本戦略の一つに掲げ、次代を担う若者たちへの支援に重点をおいた施策を進めています。その一つが、平成30年度から始めたWAKASA

チャレンジプロジェクトです。若者の活躍を応援し地域の活性化に取り組んでおり、町内の若者でプラットフォームを形成し、空き家活用の社会実験などを行ってきました。

このプロジェクトをさらに深化・発展させ、鯖街道の歴史である都市部との「つながり」、宿場町の機能の「交流」「商売」を現代版で復活させる中で、都市と地域の交流を進め、若者のチャレンジと定住を促進することが、本取り組みのポイントとなっています。

そこで、プラットフォームメンバーに加えて、都市住民で熊川宿に進出した民間事業者、また、プロジェクトで新規出店した若手事業者らを中心とした実行グループ「TEAM熊川」を結成しました。

(2)マルシェの開催と交流・移住サポート

熊川宿には飲食店などが軒を連ねていますが、観光客数に対して店舗数は不足しています。また、毎年「熊川いっぷく時代村」という大規模イベントを地域主催で開催していましたが、令和2年はコロナ禍にあり中止を余儀なくされました。そこで、TEAM熊川が主となり、「作り手のストーリーを丁寧に紡ぎ発信する」をコンセプトに、「熊川マルシェ」を開催することになりました。

第1回のマルシェは、宿場の中心に位置する古民家で開催。県内外から5団体が出店し、想定以上のにぎわいを見せました。この結果をもとに、第2回からは既に店舗を構えている店にも参加を呼びかけ、ローカルショップとして連携し、計14店舗で開催しました。そして、第3回は計27店舗、第4回には計28店舗と参加店舗が増加しました。

マルシェでは、宿場内で暮らす20代の女性が活躍する場面が見られました。これまでの地域活動では20代の女性の姿はほとんど見受けられなかったことから、喜ばしい光景を目にしました。また、町内在住の高校生起業家も出店するなど、新たな活動層の展開が図れたことは、大きな成果であると思っています。

熊川マルシェは、回を重ねるごとに町外からの来訪者が増え、熊川の認知度が高まりました。年齢層もこれまで50代以上が中心でしたが、マルシェには20～40代、特に女性が多く、新たな客層でにぎわいが復活するとともに、若者のチャレンジする気風が来場者に伝わったものと思います。

また、都市住民と地域住民、出店希望者が地域の食材を囲んで交流会を開催し、親睦を深めながら熊川宿の発展を語り合いました。地域住民からは「(高齢者の集まりが多かった熊川に)まさか、こんな時代が来るとは…」と感慨深げな言葉が聞かれ、地域住民の元気にもつながったと思っています。

このように進化する熊川宿に移住し、ビジネスをしたいという人たちが増加してきました。そこで、既に進出した都市住民をサポート役として相談体制を構築しました。ポイントは、必ず地域の代表者等を交えて支援するということです。現在、3組が新規出店を計画しており、共に活動できる日が来ることを楽しみにしています。



マルシェ参加者とTEAM熊川



熊川マルシェ
イベントショップの様子



高校生起業家による出店



街道キャンプ
都市住民と地域住民が交流

今後の展望

今回の取り組みの成果は、これまで熊川宿の住民が長きにわたって取り組んできた活動が大きな要因であると思っています。歴史を大切にして新しいことに取り組む住民の、地域を愛する思いや活性化への思いが、都市住民の活躍を導いたものと思っています。

新しい風として、「活躍やチャレンジできる風土」が生まれました。今後、さらなる出店などが予想され、熊川宿は好循環に転化しています。宿場の往時のにぎわい、役割(交流・商売)が復活し、地域経済が活性化するとともに、高齢化が進行する中においても、住んでいる人々がますます元気になり、幸せを感じるものと思います。

鯖街道の各所で同様の動きが生まれ、鯖街道全体の知名度、にぎわいが高まることを願うとともに、本地域での取り組みをモデルとして、町内の他地域への横展開を進め、町全体の活性化に結び付けていきたいと思います。

2020年度　新たな知と方法を生む地方創生セミナー

地方創生×子ども農山漁村交流プロジェクト

～「交流の力」による地域活性化～

地域活性化センターは、地域の価値を生む秘訣を学ぶことを目的に「新たな知と方法を生む地方創生セミナー」を行っています。1月22日（金）に「地方創生×子ども農山漁村交流プロジェクト ～『交流の力』による地域活性化～」をテーマとした同セミナーをオンラインで開催し、全国各地から自治体職員など23人が参加しました。



セミナーへのオンライン参加者

講義Ⅰ：子どもの農山漁村体験（通称・子ども農山漁村交流プロジェクト）

総務省地域力創造グループの早川卓也氏が登壇し、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」で提起され、政府が一体となって推進している子ども農山漁村交流プロジェクトの各種支援策について話しました。

具体的には、「子ども農山漁村交流プロジェクトセミナー」「体験移住交流計画策定支援事業」「子供農山漁村交流支援事業」を挙げ、機運醸成から計画策定、実施までの段階に応じてサポートしていると説明。

特に令和3年度は、コロナ禍やGIGAスクール構想、自治体DXによる情報通信環境整備の進展を踏まえ、対面での交流効果をより高めるためのオンライン交流を支援していきたいと強調しました。

このほか、支援事例として、旅行会社へのPR資料やオンライン動画、安全マニュアルの作成に取り組んでいる千葉県いすみ市や、マーケティングを用いた現状・課題分析を行う福井県嶺南6市町の「品質向上プロジェクト」などの紹介がありました。

講義Ⅱ：子ども農山漁村交流に取り組むための要点整理

都市農山漁村交流活性化機構の花垣紀之氏が、大阪府立天王寺高校が北海道芽室町で行った農村体験の動画を視聴しながら、受け入れ体制を整備する際の工夫について話しました。

受け入れの窓口には専任の担当者を置き、地域の関係団体や受け入れ先との調整に当たるとともに、受け入れ家庭の拡大に向け日帰りモニターツアーも体験してもらい、地元住民に交流の意義や楽しさを知ってもらうことが重要と指摘。その上で、受け入れ家庭の過度な負担の予防策として、食事メニューの例を作成しておくといったサポートも必要になると述べました。

講義Ⅲ：群馬県みなかみ町の事例発表

みなかみ町体験旅行の福田一樹氏が、同町で行っている子ども農山漁村交流について、具体的な事例を交えながら紹介しました。

子ども農山漁村交流では、事業者・顧客・地域の三方が良くなるプログラムづくりが重要であり、地域が稼ぐことだけでなく、達成感や継続意欲を持てる要素を考えることが大切であると強調しました。また、観光資源の発掘から磨き上げの工程では、ターゲットや提供方法のマイナーチェンジを繰り返す商品展開、他の宿泊業者と協力できる商品ラインアップづくりなどに取り組むことが、観光資源に付加価値を生み出し、地域として稼ぐことにつながっていくとのことでした。

セミナーを終えて

コロナ禍により子ども農山漁村交流に取り組むことが難しくなった今だからこそ、地域での体験の価値が高まっているように感じました。また、オンラインでの事前・事後学習など新たな価値の提供が可能となったことから、子ども農山漁村交流がチャンスを迎えていることに気づきました。他にも、子ども農山漁村交流は、子どもが地域を感じ、考える入口であり、推進していくには5～10年という長期的な視点をもって、地域・顧客側双方の現場に出ていく必要があることも学びました。

◆本セミナーの講師

総務省地域力創造グループ
地域自立応援課　人材力活性化・連携交流室（併）地域振興室
地域支援専門官　課長補佐　早川 卓也 氏

一般財団法人
都市農山漁村交流活性化機構
業務第1部グリーン・ツーリズムチーム次長　花垣 紀之 氏

一般社団法人みなかみ町体験旅行
専務理事　福田 一樹 氏

地域活性化センター
地域リーダー養成課 副参事
●渡邊 洋馬（青森県弘前市より派遣）

2020年度　新たな知と方法を生む地方創生セミナー

地域を支えるダイバーシティ
～誰もが活躍できる社会を目指して～

地域活性化センターは、地域の価値を生む秘訣を学ぶことを目的に「新たな知と方法を生む地方創生セミナー」を行っています。1月30日（土）に「地域を支えるダイバーシティ～誰もが活躍できる社会を目指して～」をテーマとした同セミナーをオンラインで開催し、全国各地から自治体職員など14人が参加しました。

講義Ⅰ：ポストコロナ時代の地域共生社会

慶應義塾大学教授の駒村康平氏から、日本が抱えている問題と地域共生社会の実現について説明がありました。

「縮小し、高齢化」する地域社会をどのように「維持・再生」していくかが、現在の地域社会で大切なテーマとなっています。また、新型コロナウイルス感染症の影響で新たな問題に直面しており、「誰一人取り残さない」というSDGs（持続可能な開発目標）の考えも重要視されています。

駒村氏は、現在の地域社会には従来の考え方では解決できない多様な問題が増加しており、今あるツールを変える「インクリメンタル（部分的改善）イノベーション」ではなく、新しいツールを活用する「アーキテクチュアル（解法）イノベーション」の考えが重要になると指摘しました。

地域共生社会を実現するためには、地域住民が中心となり相互に「しんがり」の役割を果たすことが必要不可欠になり、行政も個々の問題に対し縦割りで対応するのではなく、横に連携していくことが求められると強調していました。

講義Ⅱ：誰もが活躍できる社会を目指して

日本財団国内事業開発チームの竹村利道氏から、障がい者や働きづらさを感じている人すべてに対する就労支援について説明がありました。

前半は、竹村氏が代表を務めるNPO法人ワークスみらい高知での取り組みを紹介しました。同法人は、一般就労を目指した障がい者への就労移行支援事業や就労継続支援事業などを行っており、提供する商品の価値を高め、障がい者が堂々と社会貢献できるような取り組みを実践しています。

後半は、駒村氏も関わっている「WORK！DIVERSITY」プロジェクトについて説明がありました。同プロジェクトは障がい者、難病者、刑余者、引きこもりなどすべての働きづらさを感じている人を対象としたダイバーシティの概念に基づく就労支援で、令和3年度からモデル事業を実施していく予定です。

講義Ⅲ：ようこそオムロン京都太陽へ

オムロン京都太陽社長の三輪建夫氏から、よりよい未来に向け、社会課題を先駆けて解決していく企業理念を実践した障がい者雇用について説明がありました。

同社は、多様な障がいを持つ人材が〝イキイキ〟と働き続けるために、違いを認め徹底的に人を活かすことを追求する取り組みを実施しています。具体的には、出来ないこと・苦手なことだけを機械に任せるなど、個々の作業者に合わせた業務改善や、究極のコミュニケーションによる相互理解の輪づくりのために、ウェブを利用した日々の自己診断をもとに上司との対話を行っています。

グループワーク：地域を支えるダイバーシティの実現に向けて考える

グループワークでは、地域での対応が困難なニーズや地域課題を洗い出し、参加者が実際に行動できそうなことを考え共有しました。講評では、駒村氏より地域課題を解決するためには地域に必ず存在する、「情熱がある人」「現場力がある人」「世の中に広める人」を見つけることが重要だという指摘がありました。

セミナーを終えて

現在の日本では価値観や人材が多様化しています。これに対し住民同士で「しんがり」の役割を果たせる地域社会を行政がつくっていく必要性を学びました。また、障がい者雇用などの事例を通じ、個性を尊重し、すべての人たちが自分らしく社会の一員として働くことの重要性を改めて感じました。今後、誰一人取り残さず、誰もが活躍できる地域共生社会を目指していくために、自分に何ができるかを考えていきたいと思います。

◆本セミナーの講師

慶應義塾大学経済学部　教授　駒村 康平 氏
公益財団法人日本財団国内事業開発チーム　シニアオフィサー　竹村 利道 氏
オムロン京都太陽株式会社　代表取締役社長　三輪 建夫 氏

地域活性化センター
企画グループ
●清水 蓉子（山梨県北杜市から派遣）

2020年度　新たな知と方法を生む地方創生セミナー

未来と地域を創る教育

～地域と交わる人材育成と社会教育の可能性～

地域活性化センターは、地域の価値を生む秘訣を学ぶことを目的に「新たな知と方法を生む地方創生セミナー」を行っています。2月19日（金）に「未来と地域を創る教育～地域と交わる人材育成と社会教育の可能性～」をテーマとした同セミナーをオンラインで開催し、全国各地から自治体職員など34人が参加しました。

講義Ⅰ・Ⅱ 社会をつなげる社会教育へ

東京大学大学院教授の牧野篤氏が、社会教育の現状や背景を踏まえ、地域社会のあり方を住民が主体的に考えたまちづくりについて講義しました。

牧野氏は、社会をきちんと次の世代につなげるには、社会教育を基盤とした人づくりや地域づくりが重要になると指摘。その上で、行政には社会教育や生涯教育の重要性が浸透していないとし、学校教育と連携して次世代を担う人材を育成する必要性を強調しました。さらに、住民が主体となって地域社会に関わるためには、試行錯誤を繰り返しながら楽しんで学ぶことが重要であると述べました。

講義Ⅲ 未来と地域を創る教育

NPO法人地域サポートわかさの宮城潤氏が、公民館の担う役割を解説し、自身が館長を務める那覇市若狭公民館の取り組みを紹介しました。

宮城氏は、地域課題の多様化・複雑化に加え、地縁組織とのつながりも希薄化している中で、公民館は趣味などの小さなコミュニティが緩くつながることでセーフティネットの役割を果たすと強調。また、特定のつながりやコミュニティだけではなく、その外側にも目を向けて多様性を考えながら活動する必要性にも言及しました。

講義Ⅳ 社会教育士について

文部科学省地域学習推進課の西田将史氏から、令和2年4月に創設された「社会教育士」について説明がありました。

社会教育士は、これまで社会教育主事が担ってきた役割に加え、豊かな地域づくりへの展開を支援するため、新たに「コーディネート能力」「プレゼンテーション能力」「ファシリテーション能力」といった実践的な能力を備えた専門的教育職員。

西田氏は、社会教育は様々な分野に貢献できるので、社会教育士が地域に入り込むことで期待される効果についてアピールしていきたいと話しました。

トークセッション&グループワーク

トークセッションでは、講師3人が社会教育に関するフリートークを行い、受講者からの質問を受けました。グループワークでは、自分の住む地域の資源について考え、講義を通して得た気づきなどから地域でやってみたいことや実現したいことについて共有しました。

セミナーを終えて

社会教育は一般行政とは関係がないものと思っていましたが、人づくりや地域づくりにおいて活用できることを知り、とても勉強になりました。今後、社会教育が様々なところで活用され、人材発掘や課題解決に楽しみながら取り組む地域が増えることを期待したいです。

◆本セミナーの講師

東京大学大学院教育学研究科　教授　牧野 篤 氏
NPO法人地域サポートわかさ　理事　宮城 潤 氏
文部科学省総合教育政策局　地域学習推進課　課長補佐　西田 将史 氏

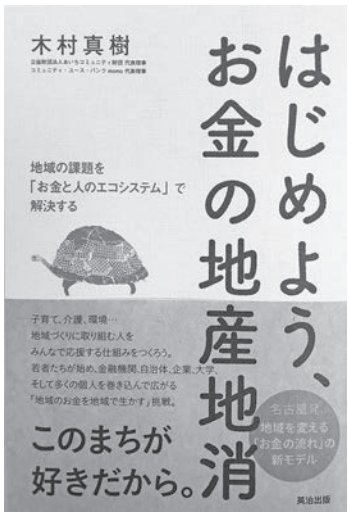
地域活性化センター
企画グループ
●横山 千秋（埼玉県加須市から派遣）



トークセッションの様子

書籍紹介

はじめよう、お金の地産地消



木村 真樹　著
英治出版（2017 年 7 月 10 日発行）
定価：1600 円＋税

地域や社会の深刻な状況の解決を行政のみに求めず、行政の手が届いていない問題を解決しようと考え、活動する人が増えている。NPO 法人（特定非営利活動法人）はそのような人たちの集まりといえ、さまざまな社会課題の解決に日々臨んでいる。社会活動や地域活動への理解や関心は確実に高まっており、2000 年時点では 3800 だった NPO 法人数は、2019 年には 5 万 1000 まで増えている。地域において欠かせない存在となった法人も少なくない。

今後の地域や社会を考える中で非常に重要な存在となった NPO だが、大きな収益を上げることができない性質上、金融機関からなかなか融資を引き出すことができず、法人の立ち上げや継続が困難になることがある。著者の木村氏はリスク回避に重点を置き、社会や地域にとって必要な NPO に融資しない銀行の在り方に疑問を抱き、NPO バンク「コミュニティ・ユース・バンク momo」（※）を立ち上げた。momo の融資開始からの 10 年で融資先は 60 を数えるが、貸し倒れが 1 件も出ていない。ただお金を出す存在にはならず、事業内容をしっかりと吟味し、より良い事業とするため融資後も支援をしているためだ。

本書には momo の活動と融資を受けた事業の事例が掲載されている。読み進める中で NPO 法人とはどのようなものなのか、自治体の手が届いていないサービスがどこにあるのか、自治体の助成はどうあるべきかなど、様々なことを考えさせられ、非常に読みごたえがある 1 冊だ。

（※）NPO バンク：市民が自発的に出資した資金により、地域社会や福祉、環境保全のための活動を行う NPO や個人などに融資することを目的に設立された「市民の非営利バンク」のこと（全国 NPO バンク HP より）

人口減少×デザイン
地域と日本の大問題を、データとデザイン思考で考える。



筧 裕介　著
英治出版（2015 年 6 月 10 日発行）
定価：1800 円＋税

日本の人口は、2008 年の 1 億 2808 万人をピークに減少に転じ、このままいけば 2100 年には 5000 万人を下回る見込みとなっている。本書は、21 世紀の日本を襲う最大の問題である人口減少について、豊富な統計データをグラフに落とし込み、人口減少の本質を読み解いていくものである。

著者は、日本の、とりわけ地方における人口減少のペースがあまりにも急激であることを問題視し、日本が誇るべき自然や文化などが損なわれることに大きな危機感を抱いている。そこで、「デザイン」を「複雑な問題の本質を一挙に捉え、そこに調和と秩序をもたらす行為」「美と共感で多くの人の心に訴え、行動を喚起し、社会に幸せなムーブメントを起こす創造的行為」と定義し、このデザインという考え方により、人口減少問題の本質を捉え、地域に問題解決の行動を呼び起こすことが必要であるとしている。

豊富なデータを様々なグラフで表して、現状分析を行い、人口減少の 3 大要因を示すとともに、要因ごとに全国の自治体を五つのグループに分け、さらに細かい分析を行い、それらを解決させるための五つの提言を示している。

人口減少が日本にとって大きな問題であることは、様々なメディアで見聞きしていたが、この本にあるグラフや詳細なデータを見ると、なぜ問題なのかを改めて理解することができる。まちの将来像を検討する自治体職員、これから日本を背負っていく 20 ～ 30 代の若者など、多くの人に手に取っていただきたい一冊である。

群馬県富岡市

富岡市版「市民協働によるまちづくり」
―対話による自治の確立を目指して―



群馬県富岡市総務部地域づくり課 係長代理
● 桐生 俊史

住民自治を推進する取り組み

群馬県富岡市は、市民と行政共通の課題に対し、それぞれの役割を自覚し、互いを尊重しながら解決を図るための仕組みとして「市民協働によるまちづくり」に取り組んでいます。その実践の場として、平成25年度に各公民館（小学校区）単位で地域活動団体「地域づくり協議会（以下「協議会」）」を組織しました。

協議会は、地域課題の解決と地域の魅力創出などに取り組む団体として、高齢者の見守り、小学生の登下校サポート、伝統文化継承、多世代交流イベントの開催といった住民創意による様々な自治活動を展開しています。これらの活動に対し、市は補助金による財政支援とともに、若手職員で組織する「地域づくり協議会応援隊（以下「応援隊」）」による人的な支援を行っています。

応援隊制度の概要

応援隊は、協議会発足当初から協議会活動をサポートしてきました。当初は地区ごとに職員を配置し、行政職の立場から事業のアドバイスなどをしていましたが、地域活動が軌道に乗ってきたため役割を見直し、令和元年度からは地域の話し合いに「ファシリテーター」（進行役）として関わる仕組みにシフトチェンジしました。

協議会は、地区ごとに策定する「地域まちづくり計画」を基に各種事業を行っています。この計画は、市で最上位の「第2次富岡市総合計画」にも掲載され、市として重要な位置づけとなっている一方、策定段階において地域の声を十分に拾えておらず、地域内でもほとんど認知されていないという課題を抱えていました。

このため、令和5年度から始まる総合計画後期基本計画では、地域住民自らの声でつくり上げた地域まちづくり計画を掲載することを目指し、令和2年度から各地区の座談会を通じて地域のリアルな悩みを吸い上げ、未来ビジョンを立案する取り組みを始めています。この座談会に向け、応援隊員は業務の合間を縫ってファシリテーションに関する専門講座を受講し、実践でのトライ&エラーを繰り返しながらスキルを高めていきます。

座談会は地域からの参加者を中心に進められますが、応援隊員は話し合いを円滑にするための潤滑油として加わり、地域課題の抽出から未来ビジョン作成、具体的なアクションの検討までを総合的に支援しています。市の各セクションで業務に当たっている応援隊員が、それぞれの専門性を活かしながら地域の話し合いに加わることにより、参加者が安心して話し合いを進められるだけでなく、応援隊員自身も地域のリアルな声を直接聞くことができるため、この場で得た情報を通常業務に活かすこともできます。

これは、当市が目標とする「地域に寄り添い伴走する市民協働」を地で行くものであり、大きな特徴となっています。

対話を通じた地域づくり

地域づくりの主人公は地域で暮らす全ての人であり、決して地域だけ、あるいは行政だけで取り組むべきものではなく、声の大きい人の意見だけでつくるものでもありません。多くの主体が地域課題を自分ごととして捉え、意見を出し合い、時にぶつかり合いながらも互いを認め、試行錯誤を繰り返しながらつくり上げていくことが必要です。

前述の通り、当市の地域づくり協議会は公民館単位で組織されていますが、これはおおむね「昭和の大合併」前の旧町村の単位となっており、コミュニティの強固な結束や助け合いの文化が今なお息づいているため、地域づくり活動を進めやすい土壌があったとも言えます。

当市では、令和3年度から公民館が市長部局に移管され、従来公民館が担ってきた社会教育の他、地域づくりの拠点としての機能強化を図っ

ています。これに併せて、公民館の運営方針や地域づくり計画など、地域単位の総合的な方針を協議するための会議体として「地域づくり円卓会議」（仮称）の立ち上げも予定しており、応援隊員がファシリテーターとして加わる地区座談会も、この円卓会議による運営を想定しています。

様々な主体が対話により地域の方向性を協議することで、全体の満足感・納得感を高め、各主体が自主的・積極的に地域活動に参画することも期待されます。

今後の展望

当市が推進する市民協働は概念的なものであり、これまで明確に定義づけされていませんでした。このため、行政内部でも誤った認識を持たれるだけでなく、地域の代表者が代わるたびに「協働」の捉え方が変わってしまうという課題がありました。これを解消し、地域・行政それぞれの役割を明示するため、令和2年度から、無作為抽出によって選ばれた市民を中心とする「とみおか未来会議」を行っています。委員の平均年齢は約40歳（開始当時。最年少参加者は15歳）で、従来の市民会議からは考えられないような世代の参加が見られます。

ここでは地域の課題を話し合い、その解決に向け、地域と行政がどのような役割を担うかを明確に定義するため、「協働まちづくり条例」（仮称）の制定を目指しています。自分たちの声を基に条例をつくり上げる過程を通じ、参加者自身が地域課題を自分ごととして捉える機会となることを狙っています。

地域づくり活動は、これまで地域内で当たり前に行われてきたものであり、行政が一方的に押し付けるものではありません。当市では、地域の創発を促すきっかけの提供や自主的・主体的な活動をサポートし、地域には行政の取り組みを後押ししてもらうような、優しく広がりのある地域づくりを推進するとともに、行政内部にあっては、自らの業務に誇りと責任を持ち、知識や経験を地域に還元する仕組みの構築を目指しています。

地域づくりというと、派手で華やかな取り組みが注目されがちですが、地域で暮らす住民と目線を合わせ、共に悩みながら伴走していく暑苦しい取り組みを通じて富岡市オリジナルの市民協働を形作り、住民自治を加速させていきます。



地区座談会の様子　応援隊員がファシリテーターを務めます



応援隊員向け講座
ファシリテーション技術向上に向けた学びと地域の将来ビジョンづくりを学びます



とみおか未来会議の様子



ふれあいカフェ

これからの共創のかたち「リビングラボ」
―多様なステークホルダーによるまちづくり―

神奈川県横浜市、鎌倉市、長野県

社会課題を解決する参加型デザインと呼ばれる手法の一つに「リビングラボ」がある。新しい技術やサービスの開発において、企業や市民、行政などの多様なステークホルダーが参加し、新たな価値を共に創造する共創活動、またはその活動拠点のことをいう。

近年、地方自治体でもリビングラボは注目されてきており、市民参加のプロジェクトとして取り組むことで、複雑な社会課題の解決に向けた好循環を生み出していくことが期待されている。

神奈川県横浜、鎌倉両市と長野県で行われているリビングラボの取り組みを学びながら、導入に至る経緯や背景を明らかにするとともに、リビングラボにより生み出された成果を調査した。

持続可能な活動を目指して

東京のベッドタウンとしての側面もある横浜市では、地域福祉型、エリアマネジメント型、企業マーケティング型といった多様なリビングラボが展開されている。横浜市がリビングラボに取り組み始めたきっかけは、高度成長期に大型住宅団地に転入してきた子育て世代の高齢化に加え、若年層の晩婚化・未婚化などで人口構成と地域課題が大きく変化し、求められる行政サービスの内容が変わったことに気がついたからである。

リビングラボに取り組む前にも、行政と民間の対話を大切にするため、平成20年度に共創推進室（共創フロント）を市役所内に設置。平成26年度には公民連携のプラットフォームとして「LOCAL GOOD YOKOHAMA」を設置して新しい公共の仕組みを目指してきた。しかし、多様なステークホルダーの連携が安定的に継続できる仕組みと、民間事業者が地域に関わりながら利益を得ることができる活動が必要と考え、平成27年度に市がサポートする形でリビングラボの取り組みが始まった。

持続的な活動を行うために「横浜リビングラボサポートオフィス」という中間支援組織を立ち上げ、行政主導ではなく、官民が協働して推進している。この取り組みはコロナ禍においても続いていることから、地域ニーズに即した仕組みとして有用性があるといえる。

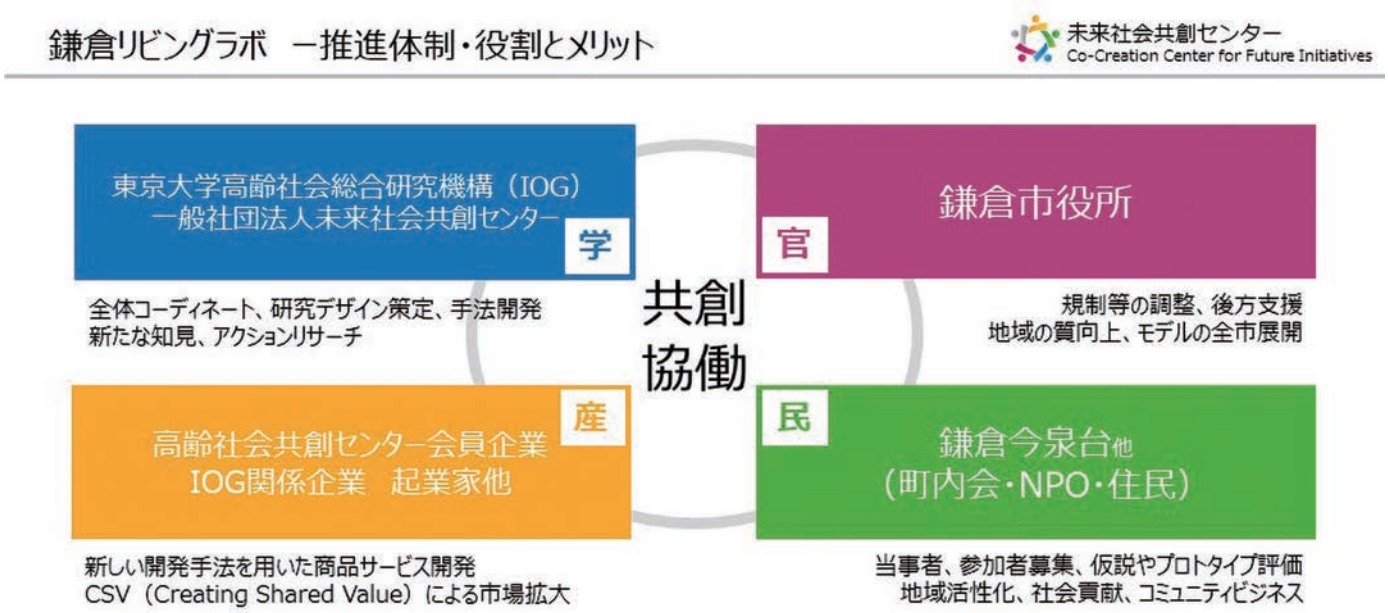
長寿社会での地域コミュニティ再生

鎌倉市は高齢化率が約30％と神奈川県内でも高く、今後はさらなる人口減少などにより、まちとしての機能が維持できなくなる地域が出てくることが想定される。これまで地域コミュニティを支えてきた自治会や町内会は、地域の担い手が不足することも考えられるため、将来に向けて持続可能なコミュニティ形成を模索していかなければならず、一つの試みとしてエリアマネジメントによる地域コミュニティの再生が行われている。平成29年1月には、人口減少の進む地域の課題解決策の一つとして、東京大学高齢社会総合研究機構がコーディネート役となり、産官学民連携による鎌倉リビングラボがスタートした。

鎌倉リビングラボでは、特に高齢化率の高い今泉台地域で超高齢化社会・長寿社会に必要な商品やサービ



横浜市の取り組み事例　空き家の活用



ス、仕組みを産官学民が連携する場を通して共創している。最大の特徴は、NPOがコミュニティビジネスとして地域のコーディネーター役を担い、住民が報酬を得て「プロの生活者」として参加していることだ。多世代の住民が主体的に活動に参加することで、地域活性化につながることが期待される。

今後は、リビングラボの全市展開に向け、その知名度を向上させるとともに体験者を増やし、新たな担い手づくりと活動場所の開拓を進めることが重要となる。


長野県小川村での空き蔵改修

都市・地方交流で新たな価値を創造

長野県では、人口流出による地域づくりの担い手確保やその育成が課題であったが、地域活性化を担う人材を獲得するための施策を具体化できずにいた。そのような中、担当者が参画した会議で話題になった関係人口に着目し、国の「関係人口創出事業」に手を上げて「信州つなぐラボ」を立ち上げた。信州つなぐラボでは、長野県内の住民と、多拠点でのライフスタイルに興味がある都会在住者が、それぞれの視点や知恵を出し合い、都市と地方をつなぐ新しいプロジェクトを共創し、実証実験を行っている。このプロジェクトの中で、地域住民と首都圏の人々が意見を出し合って改修した空き蔵が、地域内外の人々が集える拠点に生まれ変わった。

信州つなぐラボは、民間事業者と連携して参加しやすい仕組みづくりを行っており、運営側が初めから具体的なミッションを決めないことで、自由度が高く、自主的に参加しやすいものになっている。都市部との交流を通じて関係人口の創出につながっただけでなく、住民は自分の住む地域に関心を持つようになり、シビックプライドの醸成にも寄与している。

地域ニーズの見極めを

今回調査した事例に共通しているのは、地域を理解し、地域課題の解決に向けて、今の地域には何が必要かをしっかり見極めているということ。そして、住民をプロの生活者として位置づけ、生活の中の小さな気づきを起点にすることを大切にしていることもその一つである。

リビングラボは目的ではなく、あくまで課題解決のための手法である。今後も地域課題が刻々と変化する中で、地域ニーズをしっかりと見極めていくことが求められる。リビングラボは柔軟で汎用性も高いため、様々な課題解決に用いることが可能であり、地域の実情に応じた展開が見込まれる。これからも持続可能なリビングラボが全国で生まれることを期待したい。

地域活性化センター　副参事
●岩﨑　香央里（鹿児島市から派遣）
●鈴木　充
（山形県置賜広域行政事務組合から派遣）
移住・交流推進機構　参事
●前田　岳
（福井市から派遣）

首長の思い
column



「家族の絆」を取り戻す

岡山県笠岡市長　小林　嘉文

笠岡市は岡山県南西部に位置し、半径30キロの範囲（車で1時間圏内）に東は倉敷市、西は広島県福山市の圏域があり、人口100万人都市圏の中心という地理的優位性があるまちです。

また、古くから備中地方南部の交通の要衝であり、港町、門前町として栄えてきました。江戸時代には幕府の直轄領となり、代官所が設けられ、以後幕末まで代官支配が行われました。代官の中には、西日本一帯の大飢饉において直接領からひとりの餓死者も出さなかったと伝えられる、「いも代官」として有名な井戸平左衛門や、庶民のための教諭所「敬業館」を設立して領民教育に努めた早川八郎左右衛門がいます。

明治5年から同8年までは小田県の県庁が笠岡に置かれ、町制施行により笠岡町が誕生。山陽線も開通して海陸交通の結節点となった笠岡町は、備中地方の産業・文化の要衝としてますます発展しました。

さて、私は純粋な民間人として初めての笠岡市長に平成28年より就任しています。「笠岡が定住の地として選ばれ、住んで良かったと思えるような笠岡を実現し、一家族でも多く、親子二世代・三世代が一緒に暮らせる社会をつくり、家族の絆を取り戻すことができること」を最終目標に、「教育三改革」「インフラ整備」「産業振興と観光」「子育て・福祉の充実」を4本柱として、笠岡市の持続的な発展の実現へ向けて取り組んでいます。

具体的には、まず倉敷市と福山市を結ぶ国道2号バイパスが整備中であり、両市と信号のない道路でつながります。また、高速道路の市内篠坂パーキングエリアへのスマートインターチェンジの令和7年度の設置を目指すなど、交通の利便性向上が見込まれています。

企業誘致についても、荒地となっていた28万平方メートルに及ぶ土地を県営笠岡港工業用地としてほぼ完売。また、1191ヘクタールの広大な農地を誇る笠岡湾干拓地では、アジア最大規模の栽培面積を誇る次世代園芸施設が平成31年より稼働し、最先端技術を用いた温室内で野菜を生産しています。その他にも、畜産農家が行う国内最大規模の搾乳機（ロータリーパーラー）導入を支援するなど地場産業の振興を図るとともに、「企業コーディネーター」の配置により営業力を強化しています。

教育や子育てに関しては、18歳までの入院医療費を無料化し、妊娠中・子育て中のお母さんが安心して子育てができるよう子育て世代包括支援センター「ほっと★はぐ」を開設。さらに、検診や予防接種の記録管理や子育て支援情報を受けることができる「母子健康手帳アプリ」を導入しました。就学前の再編成、学校規模適正化、小中一貫教育の推進などの教育改革によって教育の充実も図っています。

交通の利便性向上や企業誘致が進んでいる今、まちづくりへの投資のチャンスを逃さないために財源も確保しています。民間で働いた経験を活かし、「入るを量りて出ずるを制す」を心にとめ、ふるさと納税や市有地売却の推進、干拓負担金の整理、課税客体の見直し、収納率の向上など、ありとあらゆる手段を使って自主財源を平成27年度との比較で約21億5000万円増やすことができました。

このように、笠岡市は4本柱を中心に地域経済の活性化によって得た財源を教育・子育て・福祉へ再投資する「正のスパイラル」によって、市の将来ビジョンである「元気・快適・ときめき　進化するまち笠岡」を目指します。そして、最終目標へ向けてスピード感を持って事業を実施し、〝結果〟にこだわり、〝成果〟を上げていきます。

手前みそですが…

長野県

千曲市 267

絶景と温泉、花と歴史のまち 千曲



写真提供：信州千曲観光局

■姨捨の棚田
約 1500 枚の大小の田んぼが織りなす絶景スポット。国の名勝や重要文化的景観、日本遺産に認定されている

千曲市は長野県の北部に位置し、ほぼ中央を東南から北東に大きく曲がりながら千曲川が流れています。千曲川の豊かな水によって育まれた肥沃な大地に恵まれ、日本一といわれるトルコギキョウを中心とした花卉（かき）栽培、リンゴやブドウなど多品目の果樹栽培が盛んです。

また、開湯100年以上の歴史を持ち、源泉かけ流しが自慢の美肌の湯として知られる「戸倉上山田温泉」や、重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けた「蔵の街　稲荷山」など歴史あふれるまちです。春には一目十万本と言われる「あんずの里」で一面にあんずの花が見事に咲きほころび、名月の里として知られ松尾芭蕉の俳句や歌川広重の絵画の題材となった「姨捨（おばすて）の棚田」は、懐かしい四季折々の日本の原風景を見ることができます。

さらには、上信越自動車道と中央自動車道につながる長野自動車道が結ばれる更埴（こうしょく）ジャンクションがあり、高速交通網の要の役を果たしています。



■戸倉上山田温泉
善光寺参りの精進落としの湯として昔から親しまれ、「美肌の湯」として知られる長野県屈指の温泉



■戸倉上山田温泉夏祭りと煙火大会
勇獅子（いさみじし）、冠着（かむりき）太鼓、若連神輿（みこし）など迫力満点の夏祭り。温泉街を見下ろす城山からの花火が夏祭りを彩る



■信州千曲市千曲川納涼煙火大会
毎年８月７日に開催され、戸倉上山田温泉の千曲川河畔で約１万発の花火が打ち上げられる



■蔵の街　稲荷山
善光寺街道の商都として栄えた「重要伝統的建造物群保存地区」。江戸や明治の面影が残る町



■あんずまつり
あんずの花が一面に咲き誇る３月下旬から４月中旬は、あんず製品の販売やイベントなどでにぎわう



■あんず狩り
日本有数の生産地である千曲市では、生のあんずを食べられる。収穫期が短いため初夏限定のイベント

地域づくり５月号

2021 年５月１日発行　編集・発行＝一般財団法人地域活性化センター
東京都中央区日本橋2-3-4 日本橋プラザビル13階 電話03-5202-6131(代)
https://www.jcrd.jp/　印刷・製本／株式会社太平印刷社

法律で許可された場合以外に本誌からの無断転載を禁止します
落丁・乱丁はお取り替えします。編集室（03-5202-6139）E-mail：hensyuu6139@jcrd.jp まで、ご連絡下さい。

地域活性化センターからのメールマガジン登録はこちら

地域づくり5月号（通巻383号）
令和3年5月1日
一般財団法人 地域活性化センター発行


宝くじ桜


一輪車


ドリームジャンボ絵本

宝くじは、

図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、少子高齢化対策や災害に強い街づくりまで、さまざまなかたちでみなさまの豊かな暮らしに役立っています。


救急普及啓発広報車


遊具



移動採血車


青色回転灯パトロール車



下水道啓発パンフレット


自然公園案内映像展示設備

一般財団法人日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

一般財団法人 日本宝くじ協会
https://jla-takarakuji.or.jp/

2021
5
ISSN 1340-8917



令和２年度 ふるさとイベント大賞

地域づくり 特集編

目 次

表2　第25回ふるさとイベント大賞表彰式・2021地方創生フォーラム in 東京を開催

大賞（内閣総理大臣賞）　2　ジャパンバードフェスティバル2019【千葉県我孫子市】

最優秀賞（総務大臣表彰）　4　ファッション甲子園【青森県弘前市】

優秀賞　6　全国500歳野球大会【秋田県大仙市】　7　碓氷峠廃線ウォーク【群馬県安中市】
8　大川木工まつり【福岡県大川市】

ふるさとキラリ賞　9　UNMANNED無人駅の芸術祭／大井川【静岡県島田市】　10　まちぐるみWedding【山口県光市】

選考委員特別賞　11　都城六月灯おかげ祭り【宮崎県都城市】

次点（22団体）

12　まるごと大鰐秋の感謝祭【青森県大鰐町】
13　三種ミュージカル「秋田の赤い靴物語」【秋田県三種町】
14　いわき回転やぐら盆踊り大会【福島県いわき市】
15　北条海岸BEACHマーケット【千葉県館山市】
16　灯の回廊【新潟県上越市】
17　長野デザインウィーク～善光寺表参道イルミネーション【長野県長野市】
18　峠の国盗り綱引き合戦【静岡県浜松市】
19　第17回美山かやぶきの里雪灯廊【京都府南丹市】
20　たるまるカフェ森のコンサート Vol.12【奈良県黒滝村】
21　松江武者行列【島根県松江市】
22　住民参加創作ミュージカル「群青～濱田誕生、そして明日へ～」【島根県浜田市】
23　つやまエリアオープンファクトリー【岡山県津山市】
24　とびしまウルトラマラニック in せとうち・呉【広島県呉市】
25　妖怪祭り【徳島県三好市】
26　瀬戸内かみじまアートプロジェクト2019 防波堤ペインティング【愛媛県上島町】
27　全国高等学校漫画選手権大会（まんが甲子園）【高知県】
28　日高メシふぇすてぃばる【高知県日高村】
29　第31回 とばた菖蒲まつり2019【福岡県北九州市】
30　TAGAWAコールマイン・フェスティバル～炭坑節まつり～【福岡県田川市】
31　佐賀さいこう！企画甲子園【佐賀県】
32　長崎居留地まつり【長崎県長崎市】
33　結びのまつり～人を想い　土地を想い　神を想う～【宮崎県都農町】

2021年5月1日発行　編集・発行＝一般財団法人地域活性化センター　©2019 jcrd.jp
東京都中央区日本橋2-3-4 日本橋プラザビル13階 電話03-5202-6131（代）https://www.jcrd.jp/　印刷・製本／株式会社太平印刷社

本誌は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです

第25回ふるさとイベント大賞表彰式・2021地方創生フォーラム in 東京を開催

地域活性化センターでは、令和３年３月４日（木）に「第25回ふるさとイベント大賞表彰式」と「2021地方創生フォーラム」を開催しました。今回は初のオンラインにて開催し、多くの方にご視聴いただきました。

■プログラム

13：00～　第25回ふるさとイベント大賞表彰式
14：10～　2021地方創生フォーラムin東京「ポストコロナ時代の社会変容 ～新しい地域活性化の手法を考える～」

【基調講演】三宅　邦明 氏（株式会社ディー・エヌ・エー 最高医療責任者（CMO））
「DeNAが取り組むWith/Afterコロナにおける働き方と自治体協働」

森川　博之 氏（東京大学大学院工学系研究科 教授）
「デジタルからみた日本社会の再定義～ニューノーマル時代への処方箋～」

【事例発表】中寺康太郎 氏（株式会社ディー・エヌ・エー スマートシティ統括部スマート・ベニュー推進部）
「DeNAが横浜で取り組むスポーツエンターテイメント×まちづくり」

福田　一樹 氏（一般社団法人みなかみ町体験旅行 専務理事）
「コロナ禍を起点に、リアルな地方の在り方を考える
旅行商品づくりの先にあるもの『クリエイティブと土着の交わる場所 ～群馬県みなかみ町～』」



スクリーンに映し出された受賞団体の皆さんと授与者



大賞（ジャパンバードフェスティバル 2019）



最優秀賞（ファッション甲子園）

第25回ふるさとイベント大賞の概要

「ふるさとイベント大賞」は、全国各地で数多く開催されている地域の活力を生み出すイベントを表彰し、全国に向けて紹介することによって、ふるさとイベントの更なる発展を応援することを目的に設けられた賞です。

今回で25回目を迎え、第24回までに、178の個性豊かなイベントを表彰しています。

今後も、ふるさとイベントの創造・発展を促すことで、地域固有の風土・伝統・暮らしを守るとともに、地域に対する愛着と誇りを育み、内外との交流につながる地域の活性化を目指しています。

●応募対象イベント

平成31年１月１日から令和２年６月30日までに市区町村（広域を含む）で開催されたイベント。

ただし、以下のいずれかに該当するイベントは対象外とします。

・直近の５回（第20回～第24回）に大賞及び最優秀賞等各賞を受賞したイベント
・継続性がなく１回の開催のみで終了するイベント

●選考過程

イベント主催団体から、市区町村等を通じ、都道府県へ応募書類を提出していただきました。今回の応募総数は125件でした。

応募されたイベントについては、イベントプロデューサーや学識経験者等により構成される「第25回ふるさとイベント大賞選考委員会」において、厳正な審査を行い、受賞イベントを決定しました。

なお、選考にあたり、右の選考基準を基にイベント内容を総合的に判断しました。

●選考基準

	評価のポイント
企画	・地域資源を積極的に活用している。 （地域資源：風土、産業、食文化、伝統文化、歴史、特産物、建築物・構造物など） ・独創性にあふれ、新たな地域の魅力を創り出している。 ・多くの人を惹きつける魅力がある。 ・魅力を増すための創意工夫が顕著である。
運営	・地域住民が積極的に参加している（参加することに誇りを持っている）。 ・地域の内外を問わず、交流や連携が行われている。 ・継続して開催されており（継続される見込みがあり）、将来の発展性が見られる。
効果	・地場産業の振興や観光客誘致など、経済的な波及効果がある。 （低予算でも波及効果が大きいなど） ・地域の知名度アップに貢献している。 ・地域住民の郷土意識の高揚につながっている。 ・伝統文化の継承や新しい文化の創造につながっている。

選考委員長の総評　北川 フラム氏　（株式会社アートフロントギャラリー代表取締役／アートディレクター）


©Mao Yamamoto

今回選ばれたイベントは、「ジャパンバードフェスティバル2019」をはじめ「ファッション甲子園」「全国500歳野球大会」「まちぐるみWedding」など、どこで始めてもおかしくない、ある意味では普遍的なテーマのものでした。それだけにそれを企画し、続けた人たちの努力は大変なものだと想像できます。

また「廃線ウォーク」と「UNMANNED無人駅の芸術祭/大井川」は鉄道の衰退のなかで、鉄道がもっていた、あるいは今ももっている土地と深く結びついた人々の記憶を想い起こさせるものでした。

「大川木工まつり」と「都城六月灯　おかげ祭り」も含めて、すべてはふるさとを大切に思う気持ちに支えられ、土地とそこで展開された無量無数の人々の活動が社会的な共有財産であることを改めて教えてくれました。旅行・移動と人が集まること、食事と祭りの楽しみが続けられていくことを祈ります。

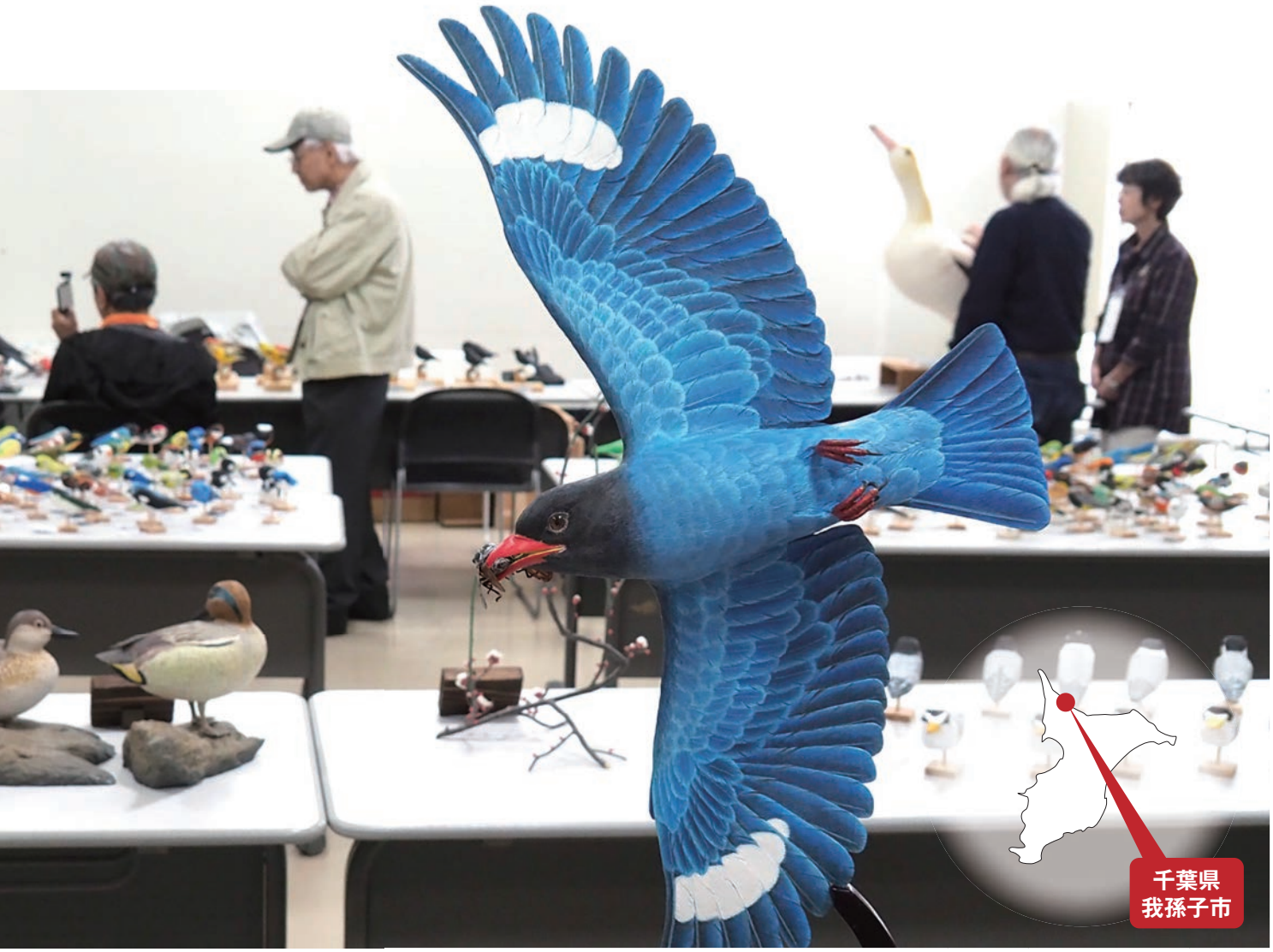
■ 問い合わせ先

一般財団法人 地域活性化センター
振興部 地域創生グループ　西森、清水

〒103-0027
東京都中央区日本橋2-3-4 日本橋プラザビル13階

TEL 03-5202-6136
FAX 03-5202-0755
E-mail：event@jcrd.jp









評価のポイント

●鳥をテーマにしたイベントでは来場者数、出展数ともに国内で最大級。
●鳥をテーマにした国際的なつながりがあり、大人のみならず子供にも興味を湧かせることができるなど、広がりのあるイベントになっている。
●鳥や自然環境についての調査研究・保全・啓発活動を行っている団体・学生・企業とも連携しており、地域の交流が生まれているほか、環境保全意識の向上に寄与している。
●どこで始めてもおかしくない、ある意味では普遍的なテーマであるだけに、それを企画し、続けた人たちの努力は大変なものだと想像できる。

次回開催日程

■開 催 日：令和3年11月6日（土）、7日（日）
■開催場所：手賀沼親水広場、我孫子市生涯学習センター、鳥の博物館、山階鳥類研究所等
■問い合わせ先
・団 体 名　ジャパンバードフェスティバル実行委員会（事務局）
・住　　所　〒270-1146 千葉県我孫子市高野山新田193 水の館 我孫子市環境経済部 手賀沼課内
・電話番号　04-7185-1484　・FAX　04-7185-5869　・URL　http://www.birdfesta.net/

大賞

第25回
ふるさとイベント大賞

内閣総理大臣賞

ジャパンバードフェスティバル2019

千葉県の北西部に位置する我孫子市。その南側に接する手賀沼は、都心に最も近い天然湖沼であり、市民の憩いの場となっています。緑と水が織り成すこの地域にはいろいろな生きものが生息しており、特に冬になると多くの渡り鳥が飛来するため、バードウォッチャーでにぎわいます。また、市内には国内唯一の鳥を専門とした「鳥の博物館」や、秋篠宮文仁親王が総裁を務め、全国でも名高い「山階鳥類研究所」といった機関も所在しています。

「ジャパンバードフェスティバル（JBF）」は産官民が協同で実施するイベントとして2001年にスタートしました。今では11月の第一土曜・日曜日に開催され、2日間で延べ約4万人が来場する国内でも最大級の鳥の祭典となっています。

当日は、野鳥団体による活動報告ブースのほか、野鳥観察・撮影に欠かせない光学機器の最新モデルを体験できるブース、鳥をモデルにしたグッズの販売など魅力的な出展が目白押しです。首都圏はもちろん北海道や小笠原諸島といった国内遠方からも出展があります。

また、2015年からは海外の団体も出展しており、2019年は台湾、モンゴル、フィリピン、グアテマラ、ミャンマー、タイ、コスタリカの野鳥団体が参加し、日本では見られない野鳥やその国の風土、文化について交流できる場となりました。

さらに、2010年に始まった「全日本鳥フォトコンテスト」では、全国各地から1000点もの魅力ある鳥の写真が寄せられ、その中からグランプリとして文部科学大臣賞と環境大臣賞が授与されます。

このほか、バードウォッチングやバードペインティング、スタンプラリー、鳥型のたこ揚げといった参加型のブースもあり、特設ステージはライブやトーク、じゃんけん大会、クイズ大会で盛り上がるなど、あらゆる方が楽しめるイベントとなっています。

主催者メッセージ



JBFには、野鳥に関する活動をしている団体のブース、野鳥観察に欠かせない光学機器の展示、鳥グッズのブースなどが数多く並びます。また、鳥の専門家による講演や全国から集まった野鳥写真のコンテストなど、鳥が好きな方もそうでない方も楽しめる、魅力がつまった祭典です。

ジャパンバードフェスティバル
実行委員会 実行委員長
（公財）山階鳥類研究所長
奥野 卓司さん





開催DATA

自治体名	千葉県我孫子市
自治体人口	130,458人 ※R2.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	ジャパンバードフェスティバル実行委員会
開催回数	19回
開催日	令和元年11月2日（土）、3日（日）
開催場所	手賀沼親水広場、我孫子市生涯学習センター、鳥の博物館、山階鳥類研究所　等
観客数	約40,000人









評価のポイント

●高校生の創造力やデザイン力の向上、チャレンジ精神の育成に大きく寄与している。
●全国でも珍しい地域活性化イベントとして青森県のイメージアップに貢献するとともに、高校生を対象とした斬新な取り組みは国内外のファッション関係企業等から支持・支援を受け、さらに地域においても、大会開催で培われた国内ファッション関係者との人脈を活かしたアパレル産業活性化に係る独自の取り組みが展開されている。
●どこで始めてもおかしくない、ある意味では普遍的なテーマであるだけに、それを企画し、続けた人たちの努力は大変なものだと想像できる。

次回開催日程

■開 催 日：令和3年8月22日（日）
■開催場所：弘前市民会館
■問い合わせ先
・団 体 名　ファッション甲子園実行委員会
・住　　所　〒036-8567 青森県弘前市上鞘師町18-1
・電話番号　0172-33-4111　・URL　http://www.f-koshien.com/

最優秀賞

第25回
ふるさとイベント大賞

総務大臣表彰

ファッション甲子園

「全国高等学校ファッションデザイン選手権大会（ファッション甲子園）」は、21世紀のファッション界を担う人材の発掘や、若者の夢の創造をねらいとして開催している、高校生による高校生のためのファッションコンテストです。服飾やデザインを専攻する高校生にとどまらず、普通高校や農業高校、総合高校、特別支援学校の生徒まで幅広い層が参加しています。

同一高校に在籍する生徒3人以内1組でチームを編成し、デザイン画を応募。毎年5月下旬に実施する1次審査（デザイン画による書類選考）で、最終審査会に進出する作品（35点以内）を決定します。1次審査を通過したチームは、8月に開催される最終審査会までにデザイン画をもとにした衣装を制作します。青森県弘前市で開催される最終審査会当日は、チームメンバーの1人がモデルとして制作した衣装を着用し、公開ファッションショー形式の審査で各賞を決定します。

優勝チームには副賞としてファッションの本場フランス・パリでの研修旅行を贈呈。準優勝・第3位チームは東京都で開催される「ファッション・ウィーク東京」へ招待し、高校生のうちから世界のファッションと触れ合う機会を創出しています。なお、第19回大会優勝チーム、準優勝・第3位チームの研修旅行などはすべて、新型コロナウィルス感染症流行の影響により延期となっています。

ファッション甲子園2019（第19回大会）には27都道府県から33校34チームが参加。デザイン画の応募総数は2771枚に上り、最終審査会出場を果たした作品数は34作品でした。

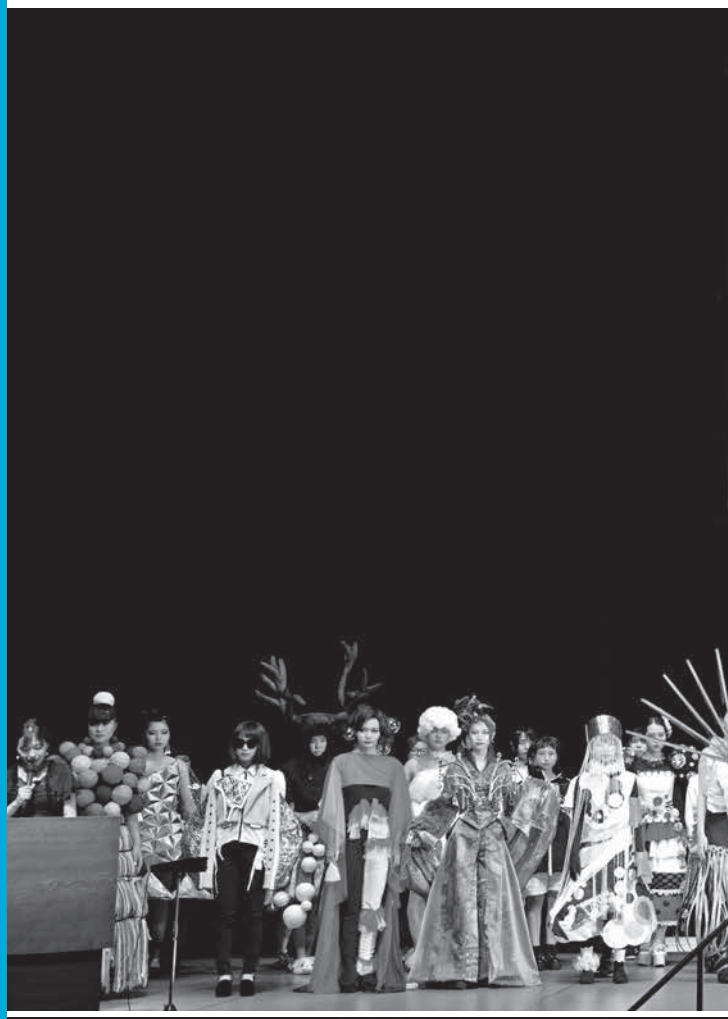
大会の出場者の中には、現在デザイナーとして活躍されている方や、大会出場を契機に服飾系の学校へ進学された方もおり、若者の人材育成・夢を実現するための一助を担う大会として毎年開催しています。

主催者メッセージ

ファッション甲子園は、衣装のデザインから制作、最終審査会当日のモデルまで高校生が務める、高校生による高校生のためのファッションコンテストです。高校生ならではの情熱やみずみずしい感性が存分に発揮される舞台をぜひご覧ください。



ファッション甲子園
実行委員会事務局
吉澤 佳苗さん





開催DATA

自治体名	青森県弘前市
自治体人口	168,702人 ※R2.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	ファッション甲子園実行委員会
開催回数	19回
開催日	令和元年8月25日（日）
開催場所	弘前市民会館
観客数	920人

優秀賞

第25回
ふるさとイベント大賞

全国500歳野球大会

秋田県大仙市は平成17年3月、1市6町1村の合併により発足し、日本最高峰といわれる全国花火競技大会「大曲の花火」や国指定重要無形民俗文化財「刈和野の大綱引き」をはじめとする行祭事、国指定名勝「旧池田氏庭園」や国指定史跡「払田柵跡」等の史跡・文化財など、多種多様な観光資源を有しています。

当市の神岡地域（旧神岡町）は、秋田県における少年野球発祥の地として知られ、市内全域で年齢を問わず野球が盛んです。「全県500歳野球大会」は、昭和54年に8チーム130人がこの地に集って第1回大会を開催しました。

出場選手9人の合計年齢が常に500歳以上で、一度退いた選手でも同じ打順であれば再登場できるなどの独自ルールで行われており、実績のない中高齢者でも無理なく適正なポジションでプレーすることが可能です。このため、平成28年の第38回大会では全県から184チーム4700人が参加し、歴史と権威あるマンモス大会に成長しています。



第1回大会は、平成29年に「野球に燃える親父たちの甲子園」のキャッチフレーズのもと、全国展開を目的として開催されました。令和元年に開催した第3回大会では県外の出場チームも増え、北は北海道、南は宮崎県のチームが参加して熱戦を繰り広げました。

初日に敗退してしまっても、翌日は当市内の500歳チームと交流戦を行うことができるのも一つの魅力です。独自ルールを熟知した500歳チームと試合を行うことで、戦略を学んだり戦力を強化したりと、次年度大会に向けた準備を行うことができます。

大会期間中のホスピタリティにも力を入れており、県外のチームには500歳野球を知り尽くした市職員を1人、チームサポーターとして配置することで、試合中のルール解説はもちろん、市内飲食店やお土産の情報提供など、様々な面からチームをサポートしています。









次回開催日程

■開 催 日：令和3年7月17日（土）～ 19日（月）予定
■開催場所：大仙市総合公園野球場（大曲球場）他5会場
■問い合わせ先
・団体名
500歳・550歳野球大会実行委員会
・住所
〒014-8601 秋田県大仙市大曲上栄町2-16
・電話番号：0187-63-1111
・URL：https://www.city.daisen.lg.jp/

開催DATA

自治体名	秋田県大仙市
自治体人口	80,459人 ※R2.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	大仙市・秋田魁新報社 （500歳・550歳野球大会実行委員会）
開催回数	3回
開催日	令和元年7月13日（土）～ 15日（月）
開催場所	大仙市総合公園野球場（大曲球場）他5会場
観客数	約1,300人

優秀賞

第25回
ふるさとイベント大賞

碓氷峠 廃線ウォーク

一般社団法人安中市観光機構と地域住民たちとで実施した「地域観光を考えるワークショップ」の中で出たアイデアが形になった企画が「廃線ウォーク」です。国重要文化財である碓氷第三橋梁（通称「めがね橋」）や旧丸山変電所、旧熊ノ平変電所などの「旧碓氷峠鉄道遺産群」の知名度の高まりから、「碓氷峠にもう一度スポットライトを当てたい」「『鉄道で栄えたまち』を悲しい記憶のまま、次世代につなぎたくはない」という地域の思いは一層高まっていました。

廃線ウォークは、20年以上も前に廃線となった信越本線新線の横川ー軽井沢区間を特別開放して、ウォーキングを楽しむことができるようにした観光コンテンツです。ヘルメットとヘッドライトを着用して、今なお残る廃線跡や鉄道設備、国立公園内の大自然を舞台に進めば「ここでしかできない冒険」ができます。

廃線後、活用されていなかった当該廃線路を安中市の観光地域づくりを担う安中市観光機構が着地型観光コンテンツとして整備しました。

ファミリーから鉄道ファン、しっかり歩きたい方など、さまざまなニーズに応えられるコースが設定可能となっています。 また、廃線ウォークをさらに魅力的にするための取り組みとして、鉄道往来時の原風景を取り戻す活動や雑木の伐採などの環境整備、当時使用されていた信号機などの鉄道設備の復活を実施しました。こうした取り組みにより、「活きた廃線」として参加者の満足度向上に努めています。

「横川のまちに汽笛は鳴り止まない」をキャッチコピーに、廃線を歩くイベントの企画や映像制作を行っています。











次回開催日程

■開 催 日：定期開催のためウェブサイトをご確認ください
■開催場所：信越本線　横川ー軽井沢区間　廃線跡
■問い合わせ先
・団体名
（一社）安中市観光機構
・住所
〒379-0222 群馬県安中市松井田町横川441-6
・電話番号：027-329-6203
・URL：https://haisen-walk.com/

開催DATA

自治体名	群馬県安中市
自治体人口	56,706人 ※R2.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	（一社）安中市観光機構
開催回数	81回 ※R2.6.30時点（135回 ※R2.12末現在）
開催日	SLぐんまよこかわ運行日に合わせて開催のほか、月3回ほど開催（新緑・紅葉シーズンは開催増）
開催場所	信越本線横川ー軽井沢区間 廃線跡
観客数	1回50人程度 累計1,900人 ※R2.6.30時点（2,900人 ※R2.12末現在）

優秀賞

第25回
ふるさとイベント大賞

大川木工まつり

全国有数の家具生産地である福岡県大川市は、筑後川の下流に位置し、約480年前、上流の木材がいかだにして運ばれ、木工の祖・榎津久米之介が船大工の技術を活かして指物（家具）を始めたことが、家具生産の起源といわれています。

「大川木工まつり」は昭和24年、榎津久米之介の400年忌を記念して開かれたのが始まりで、令和元年に第70回を迎え、大川市最大のイベントとなっています。期間中は、家具メーカー約200社による展示販売をはじめ、全国建具展示会受賞作品や大川家具職人の技術とセンスが詰まった「ネコ家具（ネコ用の家具）」などを展示し、「大川職人メイド」の技術の高さを一般消費者に発信しています。親子木工教室、小学生木工工作展、高校生作品展なども実施し、伝統継承と次世代育成にも尽力しています。

また、伝統工芸品も数多く残っており、その中でも大川総桐タンス、大川彫刻、大川組子、掛川は福岡県特産工芸品に指定されています。この大川組子に興味を持ってもらうため、コースター製作体験や組子ラケットを使用した木卓球も行っています。

他にも、大川が誇る作曲家、古賀政男先生が作曲され、市内小学校で習う木工音頭「大川よかたい」での市民総踊りや、椅子製作などの木工体験、丸太引き競争などの体力系イベント、屋台フリーマーケット、ステージイベント、パレードなど、来場者が見て、食べて、体験して木工まつりの魅力を感じることができるイベントを展開しています。

まつり前日には願蓮寺で大川木工の祖、中興の祖、現代家具の祖の報恩供養と、約1800年前に創建された風浪宮本殿でインテリア産業の振興発展とまつりの盛会を祈願する神事が行われます。

木工まつりには大川市内外からたくさんの方に来場してもらっており、リピーターも多く、令和元年は来場者が過去最高の20万人を記録しました。今後も全国に元気を届けられるよう、未来につながるまつりを開催します。











次回開催日程

■開 催 日：令和3年10月9日（土）10日（日）の予定
（本来は3日間開催ですが、「スポーツの日」が7月になる令和3年は2日間に）

■開催場所：大川産業会館・大川中央公園　他

■問い合わせ先

・団体名
大川木工まつり実行委員会事務局

・住所
〒831-8601

・電話番号：0944-85-5582

・MAIL：okwinterior@city.okawa.lg.jp

開催DATA

自治体名	福岡県大川市
自治体人口	33,376人 ※R2.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	大川木工まつり実行委員会
開催回数	70回
開催日	毎年10月のスポーツの日を最終日とする3日間
開催場所	大川産業会館・大川中央公園　他
観客数	約200,000人

ふるさとキラリ賞

第25回
ふるさとイベント大賞

UNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川



本プロジェクトは、「無人」と呼ばれるエリアにおける、アートを手法とした地域再生の取り組みです。アーティストが地域資源や人々の魅力、時には課題をも顕在化させ、無人駅を核とした集落に息づく「記憶」「風景」「営み」を掘り起こし表現することで、様々な交流や関係を生み出すことを目的としています。無人駅という時代の流れに打ち捨てられたような場に、アートを手法にスポットを当てる逆転の発想で、息づく景色や人々の生活を再発見します。参加住民は共に作業を行うことで新たなつながりを生み、地元への誇りや愛着の醸成となります。集落および制作過程では、高齢者が自らの知識や経験を伝え、生きがいづくりの一助となります。

来訪者は、作品を通して地域を再発見します。地域全体ではヒト・モノ・コトの掘り起こしと再編集、発信を通じた交流人口拡大や、これまで観光資源とは認識されてこなかった場所が今後、注目される可能性を含んでいます。

平成29年度から始め、令和2年3月に3回目の開催を迎えました。「無人駅がひらくと地域がひらく」がテーマで、大井川鐵道の無人駅6駅と、三つの集落周辺が舞台になりました。



プロジェクトは、「掘り起こす」「あらわす」「共にひらく」の三つのフェーズに即し実施しています。「掘り起こす」では、集落の文化や暮らし、景色を、アーティストが滞在してリサーチを行いアーカイブさせます。「あらわす」はアーティストが作品として表現する一連の取り組みです。制作にあたっては、集落の住民をはじめ、内外のボランティアなどの関わりを重視しています。「共にひらく」では、3月に「無人駅の芸術祭」を行います。来訪者に対し作品表現を核として、集落の人々やエリアが新しい魅力あるものとして開いています。

また、美術館のない島田市と川根本町では、この取り組みが文化芸術のアウトリーチとして機能しているとともに、芸術祭を核として住民の関わりが強固になっている集落の増加も顕著です。







次回開催日程

■開 催 日：令和4年3月開催予定
■開催場所：大井川鐵道無人駅とその集落
■問い合わせ先
・団体名
NPO法人クロスメディアしまだ
・住所
〒427-0029 静岡県島田市日之出町2-3
・電話番号：0547-35-0018
・URL：http://unmanned.jp/

開催DATA

自治体名	静岡県島田市、川根本町
自治体人口	98,282人（島田市）※R2.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	NPO法人クロスメディアしまだ
開催回数	3回
開催日	令和2年3月6日（金）～3月22日（日）
開催場所	大井川鐵道無人駅とその集落
観客数	約10,000人

ふるさとキラリ賞

第25回 ふるさとイベント大賞

まちぐるみ Wedding



平成29年度から、毎年1組の新婚カップル（基本的に婚姻届提出後1年以内）を募集し、「まちぐるみ」でお祝いしています。

主役となる新郎新婦の定住につなげることはもとより、本市の「人のやさしさや温かさ」を「結婚式」というツールを使ってまち全体で体現し、市民をはじめすべての参加者にまちへの愛着心を高めてもらうことを目的としています。

1回目の平成29年度は、光市役所の庁舎を活用して開催し、120人が参加。翌年度の2回目は、「日本の渚百選」に選ばれている「室積海岸」を舞台に開催し、200人が参加しました。

3年目となった今回は、地域資源と交通結節機関・住宅街・自然環境がコンパクトにまとまった「住みよさ」をPRするため、まちの玄関口となるJR光駅と、駅から徒歩5分の位置にあり、約2.4㌶にわたって白砂青松が続く「虹ケ浜海岸」をメイン会場としました。まちの日常とは異なった表情や雰囲気を醸し出すことで、一層の観光PRにつなげるとともに、その強いインパクトによりまちの知名度向上を図りました。



今回の開催にあたっては、光駅を所管するJR西日本に協力していただき、市内の小学生約1000人には会場に飾る「ガーランド」を作成してもらいました。このほか、当日の演奏や歌、お祝いのイベントには市内の幼稚園や中学校吹奏楽部、市民団体の皆さんが関わっており、まさに「まちぐるみでのお祝い」になりました。

なお、イベントの認知度が上がった今回は、テレビ局が開催準備段階から密着取材を行い全国放送したため、まちの知名度アップに大きな効果がありました。

参加者は1年目から増加し続けており、地域住民との関わりも強くなっています。行政と市民団体、そして市民の力により、本事業は光市のシティプロモーションの代表的なものとなっています。







次回開催日程

■開 催 日：未定
■開催場所：未定
■問い合わせ先
・団体名
山口県光市
・住所
〒743-8501 山口県光市中央六丁目1番1号
・電話番号：0833-72-1409
・URL：https://www.city.hikari.lg.jp/

開催DATA

自治体名	山口県光市
自治体人口	50,431人 ※R2.12末現在の住民基本台帳人口
主催団体	光市おせっかいプロジェクトチーム
開催回数	3回
開催日	令和元年10月20日（日）
開催場所	光駅、虹ケ浜海岸
観客数	600人（列席者）

選考委員特別賞

第25回
ふるさとイベント大賞

都城六月灯おかげ祭り



都城市は宮崎県の南西部、霧島連山の麓に広がる都城盆地の中にあり、自然と豊かな食資源、そして島津家発祥の地という文化に恵まれた都市です。

「おかげ祭り」は平成5年、希薄化する地域コミュニティを再生するため、伝統ある日本の祭りの仕組みや本質に学ぼうと始まり、祭りの厳格な秩序の中で人づくりや地域の絆・連帯感の醸成に取り組んでいます。また、自助・共助のまちづくりを推進し、年齢や立場を超えた世代が祭りを通して地域との密接な関係をつくり、「おかげさま」「お互いさま」と言える共生社会の再生を目指しています。

都城盆地では、旧薩摩藩領に伝わる旧暦6月に開催される夏祭りを「六月灯（ろっがっどう）」と呼び、おかげ祭りも神柱宮の六月灯に合わせて催されます。毎年7月8、9日の2日間の日程で行われ、年を追うごとに参加者の輪が広がり、現在では市内外から1500人超が参加しています。

祭りの行事日程は5月に始まります。立ち上げ儀式である「伴纏（はんてん）合せ」から祭り前日の「大灯籠山車組み上げ」まで、およそ2カ月の間に8回もの儀式が組み込まれています。祭りの準備や稽古の工程を儀式化することで、次の世代にも互いに助け合って生活していくことの大切さを厳格な秩序の中で伝え、そこに参加する意味と誇りを醸成し、郷土愛を育くみます。



7月8日の「宵祭り」には、中心市街地の目抜き通りで、明かりをともした十数基の大灯籠山車が引かれる「献灯祭」があり、翌9日が「本祭り」です。夕刻からJR都城駅前広場にて「出立式」を行ったのち、笛や太鼓の囃子方（はやしかた）を先頭に「跳人（はねと）」と呼ばれる踊り手を連ねた御輿（みこし）が、神柱宮を目指して勇壮に練り歩きます。祭り当日は3万5000人ともいわれる人出でにぎわいます。







次回開催日程

■開 催 日：令和3年7月8日（木）・9日（金）の予定
■開催場所：宮崎県都城市内　主会場・神柱宮境内
■問い合わせ先
・団体名
　おかげ祭り振興会
・住所
　〒885-0025 宮崎県都城市前田町1345-19
・電話番号：0986-21-4835
・URL：http://www.okagematsuri.jp/

開催DATA

自治体名	宮崎県都城市
自治体人口	163,616人 ※R2.12月1日現在の住民基本台帳人口
主催団体	おかげ祭り振興会
開催回数	29回
開催日	毎年7月8日、9日
開催場所	宮崎県都城市内 主会場 神柱宮境内
観客数	約35,000人

次点

第25回
ふるさとイベント大賞

まるごと大鰐 秋の感謝祭

大鰐町ではこれまで、特産品の「大鰐温泉もやし」「大鰐高原りんご」が旬となる11月に、「大鰐温泉もやしフェスタ」と「アップルフェア」を別々に開催していたが、イベントの魅力度と集客力を向上させ、町の活性化につなげるため、令和元年度は二つのイベントを統合し、大鰐でしか「買えない」「味わえない」をコンセプトとした「まるごと大鰐　秋の感謝祭」を開催した。

最近、さまざまなメディア等で取り上げられ、全国的にも有名になった大鰐温泉もやしをはじめ、地元特産品をまるごと販売するため、生産者や商工業者などに幅広く声がけし、感謝祭には飲食ブースとクラフト展示ブースを出展。生産者が直接農産物を販売することで、生産者と消費者が顔を合わせる「食でつながる場所」を実現した。



飲食ブースでは、大鰐温泉もやしを使ったイベント限定のメニューを各店で販売。行列ができるほどにぎわい、昼食で完売した店も多数あった。クラフト展示ブースでは、地元の作家が「津軽塗（つがるぬり）」や伝統的な刺し子の「こぎん刺し」などを展示・販売した。



このほかにも、「バルーンアート体験」では子どもたちがクリスマスツリーを製作し、親子連れに好評だった。また、地元食材の魅力を見つめ直し、ふるさとの味に誇りを持ってもらうため、大鰐をまるごと味わえるグルメ「大鰐焼き」のレシピを開発するコンテストを開催し、グランプリに輝いたレシピの大鰐焼きを来場者に無料で振る舞うなど、新しい地元グルメを来訪者とともに楽しんだ。

町内に足を運んでもらうための「ミニロゲイニング大会」や、「りんご品種当てクイズ」なども、大鰐の「魅力」と「味力」を味わえるイベントになるよう内容を工夫した。

大鰐温泉もやしをモチーフにしたゆるキャラ「もやっぴー」のお披露目式では、着ぐるみのもやっぴーが登場し、多くの来場者が一緒に記念撮影して誕生を祝福した。







次回開催日程

■開 催 日：令和3年11月中旬予定
■開催場所：大鰐町地域交流センター鰐come
■問い合わせ先
・団体名
大鰐温泉もやし増産推進委員会
・住所
青森県南津軽郡大鰐町大字大鰐字川辺11-11（鰐come内）
・電話番号：0172-88-6690
・MAIL：wanicome.concierge@gmail.com

開催DATA

自治体名	青森県大鰐町
自治体人口	9,182人 ※令和2年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	まるごと大鰐実行委員会
開催回数	1回
開催日	令和元年11月23日（土）～24日（日）
開催場所	大鰐町地域交流センター鰐come
観客数	不明

次点

第25回
ふるさとイベント大賞

三種ミュージカル「秋田の赤い靴物語」



平成7年、旧八竜町の町施行40周年記念事業として、町民の手づくりによるミュージカル「八竜物語」が上演され、大好評を得ました。この成功を多くの町民が後押し、地域づくりや文化意識の高揚を目的に「八竜ミュージカル」として継続され、平成11年に「蓮沼物語」、平成14年に「うたせ舟物語」、平成17年に「北斗星物語」と、地域の歴史・伝統・文化・風物などを題材にして3～4年ごとに上演してきました。

平成18年には、三種町への町村合併に伴い「三種ミュージカル」と改称して活動を続け、平成21年に「新釈房住山物語」、平成24年に「川村養助物語」、平成27年に「佐々木北涯物語」、そして令和元年に「秋田の赤い靴物語」を上演したところです。

秋田の赤い靴物語は、明治中期の寒村で起きた悲しく切ない実話が題材となっており、童謡「赤い靴」の原形とも言える物語です。



「貧しい農家の嫁と姑のささいなもめ事から、後妻ふじは誤って先妻の子を殺めてしまう。ふじが獄中で出産したハツは実家から身元引き受けを拒否され、ふじの教誨師であるハリソン宣教師が養育する。やがてハリソンとハツは渡米し、ハツは米国の大学を卒業して教師となるが、病弱のため志半ばで早逝する。100年以上たった今日、この事実を知った故郷の2人の青年が、ハツの生誕130年を記念しハワイ墓参に向かう」

こうした心温まる内容で、人種や国籍を問わず、支え合って生きる人間愛は、多くの人々に感動を与えるものと信じて上演しました。

今後も、地元企業や関係団体からの支援をいただきながら、地域の埋もれた題材に光を当て、地域の方々に元気を与えられるようなミュージカルを創っていきたいと思います。







次回開催日程

■開 催 日：令和4年11月中旬（3年ごとの開催）
■開催場所：三種町八竜体育館（予定）
■問い合わせ先
・団体名
三種ミュージカル実行委員会
・住所
秋田県山本郡三種町芦崎字芦崎434-2
・電話番号：0185-45-3466（岩谷）
・MAIL：syakyo-1@ogata.or.jp

開催DATA

自治体名	秋田県三種町
自治体人口	15,814人 ※令和2年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	三種ミュージカル実行委員会
開催回数	8回
開催日	令和元年11月10日（日）
開催場所	三種町八竜体育館
観客数	800人

次点

第25回
ふるさとイベント大賞

いわき回転やぐら盆踊り大会

日本の夏の風物詩である盆踊り。福島県いわき市には、「いわき回転やぐら」という日本で唯一、光り輝きながらゆっくりと回る大きな盆踊りやぐらがあります。この回転やぐらを使った盆踊り大会は、65年間にわたって毎年8月13～15日に開催されているいわき市内郷の伝統行事です。

この大会は、炭鉱がまだ地域の一大産業だった1952年、炭鉱事故で亡くなった人たちの慰霊のために当時の常磐炭礦株式会社が始めました。当初は力自慢の炭坑夫らが中心になって人力でやぐらを回していましたが、1959年からは電動式に変わりました。

全国でも類を見ない巨大な回る盆やぐらは、内郷のみならず広くいわき市に住む人々の集いの場となり、最近では東日本大震災で亡くなった方々の供養のため、また、ふるさとを離れてお盆に帰省してくる家族や友人が集う行事として、60年以上にわたって地域を結びつけてきました。

福島県唯一の国宝建造物白水阿弥陀堂を模した回転やぐらは、高さ13㍍。電飾や提灯が飾り付けられ、夜にはライトアップされて幻想的な雰囲気が漂います。やぐらの上部がゆっくりと回転するさまは仏教の「輪廻(りんね)転生」を表していて、亡くなった方のよみがえりを願うものとなっております。

やぐらの周りでは踊りの輪がつながり、やぐらの上にも一周するステージがあり踊り回る人でにぎわいます。会場の内外にはたくさんの夜店が並び、毎年5万人前後の人出があります。

65年を経て現在は4代目となったやぐらは、老朽化した3代目を2017年にリニューアルしたものです。その際、2016年にクラウドファンディング資金を募り、多くの方々のご支援をいただきました。

また2018年には、従来の踊りに加え、日本舞踊・花柳流の花柳貴代人先生が監修した新しい盆踊りを取り入れました。今後も徐々に新しさを取り入れながら、末永く地元の方々に愛され、絆となれるよう続けていきます。











次回開催日程

■開 催 日：令和3年8月13日（金 前夜祭）
14日～15日（土、日 盆踊り本祭）
■開催場所：JR内郷駅前広場
■問い合わせ先
・団体名
いわき回転櫓盆踊り実行委員会
・住所
いわき市内郷綴町榎下17 内郷商工会内
・電話番号：0246-26-1256
・MAIL：takeda@iwaki.net
・URL：https://www.iwaki-kaiten-yagura.com/

開催DATA

自治体名	福島県いわき市
自治体人口	337,765人 ※令和2年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	いわき回転櫓盆踊り実行委員会
開催回数	65回
開催日	毎年8月13日～15日
開催場所	JR内郷駅前広場
観客数	50,000人

次点

第25回
ふるさとイベント大賞

北条海岸BEACHマーケット



東京湾の入り口に位置する館山湾（千葉県館山市）は、波穏やかで海越しに富士山を望む。鏡のように景色を映し出すことから、「鏡ヶ浦」として親しまれてきた。経済成長期には、海水浴の名所として浜辺に人があふれかえるほどの人気スポットだったが、近年の「海離れ」とともに徐々に人出が減少。夏場以外は閑散として海の観光資源を生かし切れていない。

こうした状況を背景に、特に人の往来が少ない6月と11月に開催されているのが「北条海岸BEACHマーケット」だ。6月はヨガの大イベント「北条海岸BEACH YOGA 100」、11月はSUP（スタンドアップパドルボード）大会「北条海岸cup SUP RACE」と同時に開かれ、海辺を楽しむアクティビティーやドッグトレーニングなどの体験とセットでマーケットを運営する。



マーケットは、地域内外の飲食店やキッチンカー、生産者のマルシェ、雑貨店、ヘルスケアのマッサージなど多様な出店で構成。2015年の開催当初は10店舗ほどのイベントだったが、「令和元年房総半島台風」からの復興を掲げた2019年11月のイベントは100超の店舗が出店し、開催地である北条海岸芝生広場全体が5500人の来場者でひしめき合った。

主催は、市と民間の連携でつくる館山市海岸活性化推進協議会。毎回、回覧板でチラシを配布するほか、SNSの活用、地元紙の積極的な応援により徐々に認知度を高め、5年かけて多くの地域住民に親しまれる名物イベントへと変貌を遂げた。また、「海辺の休日」や「人やモノとの出会い」をテーマとしていることから、都市部住民の参加も増え、交流人口の創出や移住希望者の触れ合いの場としての機能も果たし始めている。

2020年はコロナ禍で2回とも中止となり今年の開催も未定だが、再開後は都市部へのアピールをより一層強め、観光協会や移住促進団体と共に安房地域の玄関口としての役割を担うべく企画を進める。







次回開催日程

■開 催 日：未定（例年6月、11月の第一日曜日に開催している）
■開催場所：北条海岸芝生広場
■問い合わせ先
・団体名
館山市
・住所
千葉県館山市北条1145-1
・電話番号：0470-22-3346
・MAIL：info@hojo-beach-market.jp
・URL：https://hojo-beach-market.jp/wp/

開催DATA

自治体名	千葉県館山市
自治体人口	45,767人 ※令和2年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	館山市海岸活性化プロジェクト推進協議会
開催回数	18回
開催日	令和元年6月2日（日）、11月3日（日）
開催場所	北条海岸芝生広場
観客数	5,500人

次点

第25回 ふるさとイベント大賞

灯の回廊

「灯の回廊」は、子どもからお年寄りまで大勢の地域の皆さんが協力し合い、準備から運営までを担う手作りのイベントである。イベントの企画、準備、運営は地域が主体となって実施しており、市は、灯の回廊としての全体調整、情報発信、運営のサポートを担っている。地域にとって「地域への愛着と誇り」「一体感」を育むかけがえのない機会となっている。

直接イベントを運営するスタッフのほか、住民が自ら自宅付近に雪灯籠や雪壁に穴を掘るなど、自主的に取り組む姿も見られる。また、各会場に雪茶屋と呼ばれる休みどころを設置し、手打ちそばや「のっぺ汁」など、温かい食べ物や飲み物を用意しており、地域住民をはじめとするボランティアがおもてなしにあたっている。

上越市は、日本海側に位置しているという地域特性から冬季に多くの降雪があるため、山間部の集落における積雪は2 ～ 3㍍近くになる豪雪地帯である。市域の7割を占める中山間地域で、厳しい冬を楽しもうとする地域の思いと工夫から生まれたこの取り組みは、当時の安塚町（昭和61年度～）と大島村（平成9年度～）から始まった。その後、イメージプロモーションの観点から平成23年度に灯の回廊として実施。以降、旧東頸城地域を中心に市内の他地域へと拡大し、冬の一大イベントとして温かな灯の輪が広がっている。

灯の回廊は、令和2年度で10回の開催を迎えた。各地域において、地域住民が自ら楽しみながらイベントに携わり、ボランティアや来場者とのつながりを大切にするなど、「地域への愛着と誇り」「一体感」の醸成に寄与している。

併せて、上越市の冬の風物詩として認知されており、市内外から多くの来場があり、子どもから大人まで楽しんでいただいている。また、銀世界にともるろうそくの柔らかな明かりが写真に映えるため、若い世代の来場も多くある。









次回開催日程

■開 催 日：令和4年2月下旬
■開催場所：上越市安塚区、大島区、浦川原区、牧区、高士区、名立区
■問い合わせ先
・団体名
上越市 ほか6団体
・住所
新潟県上越市木田1-1-3
・電話番号：025-526-5111
・MAIL：kanko@city.joetsu.lg.jp
・URL：https://joetsukankonavi.jp/tomoshibi/

開催DATA

自治体名	新潟県上越市
自治体人口	189,282人 ※令和2年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	上越市 ほか6団体
開催回数	8回
開催日	平成31年2月23日（土）
開催場所	上越市安塚区、大島区、浦川原区、牧区、高士区、名立区
観客数	28,430人

次点

第25回
ふるさとイベント大賞

長野デザインウィーク
～善光寺表参道イルミネーション



長野市・善光寺を中心としたエリアを、光で彩る新しいイベント「長野デザインウィーク～善光寺表参道イルミネーション～」。長野駅前から善光寺までの全長約1.8㌔にわたる善光寺表参道の並木を、約32万球の光で彩った。

国宝の善光寺本堂や重要文化財の山門は、トップデザイナーによる光の空間演出を行い、幻想的な世界へと訪れた観光客をご案内。また、市内を中心とした各高等教育機関と連携して、にぎわい創出やワークショップの開催、市内企業と連携した商品開発などに取り組み、地域の住民がこのイベントを通して街に愛着を持てるような仕掛けを施した。さらには、台風で水没したものの復活した復興ピアノを使った「ストリートピアノ」など様々な関連企画を実施。期間中の9日間に約8万9000人が訪れた。

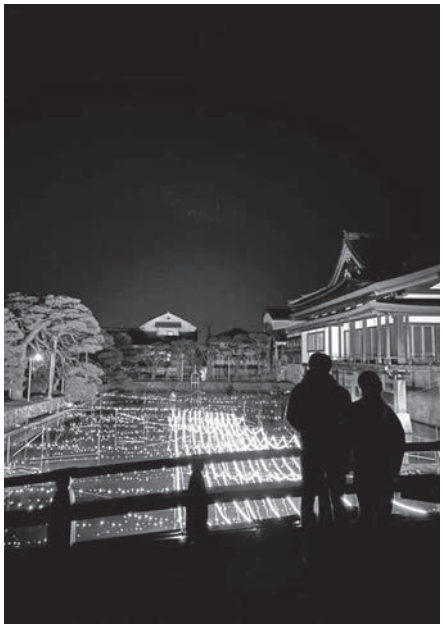
本イベントは、急成長するインバウンド需要を取り込み、多様な交流機会を提供することにより、新たな交流人口の創出および地域経済の活性化を図ることを目的に、平成30年度から始まり、令和2年2月に2回目を開催した。

学生や若者、地域住民の参画を促し、本市への誇りや愛着を育み、定住人口の減少に歯止めをかけること、さらには、様々な企画により、令和元年台風19号（東日本台風）からの復興を願い、まちににぎわいをもたらすことも目的とする。

令和2年12月には第3回目を開催し、約11万8000人が訪れた。知名度も上がり、冬の長野市に無くてはならないイベントとなっている。







次回開催日程

■開 催 日：令和3年12月ごろ（第4回目）
■開催場所：善光寺　および　長野駅～善光寺までの表参道（全長約1.8㌔）
■問い合わせ先
・団体名
善光寺表参道イルミネーション実行委員会
・住所
長野市大字鶴賀緑町1613番地
・電話番号：026-224-8316
・MAIL：kokusai@city.nagano.lg.jp
・URL：https://www.nagano-cvb.or.jp/designweek/

開催DATA

自治体名	長野県長野市
自治体人口	374,048人 ※令和2年12月1日現在の住民基本台帳人口
主催団体	善光寺表参道イルミネーション実行委員会
開催回数	2回（令和2年12月に3回目を開催した）
開催日	令和2年2月22日（土）～3月1日（日） （第3回目：令和2年12月5日～13日）
開催場所	善光寺　および　長野駅～善光寺までの表参道 （全長約1.8km）
観客数	89,000人（第3回目：118,000人）

次点

第25回
ふるさとイベント大賞

峠の国盗り綱引き合戦



静岡県北西部の水窪町（現浜松市）と長野県南部の南信濃村（現飯田市）は、険しい峰が県境の隣町村で、大昔から秋葉（信州）街道を通じて人や物資の往来が盛んでした。戦後になり、鉄道や国道の整備が進むと、かつてのような交流がなくなってしまいました。

昭和62年、両商工会青年部が「隣町村として昔のような交流を復活させよう！」と始まったのが、「峠の国盗り綱引き合戦」です。戦国時代、武田信玄が徳川家康と一戦交えるため、大軍を率いて秋葉街道を南下したとの故事から、両県境の「兵越峠（ひょうごしとうげ）」が「合戦場」になっています。

両軍の大将（市長）は陣羽織姿となり、それぞれ10人の選手（うち2人は女性）は法被姿で登場します。行司役を愛知県豊橋市長が務め、大将による口上合戦の後に綱引きが始まります。

ルールは、綱を2㍍引くか、制限時間2分経過時点で中心より30㌢以上引いていれば勝ち（30㌢未満は引き分け再試合）。3本勝負で2本先取したチームの勝ちとなります。勝ちが決まると、行司の勝ち名乗りがあり、関係者一同が綱引き会場から県境に移動して、「国境」と書いた標識を負けた県に向けて1㍍移動させます。令和元年で32回目となり、通算成績は浜松市が15勝17敗。標識の位置は、静岡県側に2㍍入っています。

県をまたいだ町と村の商工会青年部が交流復活に向け始めた峠の国盗り綱引き合戦は、「平成の大合併」でお互い浜松市、飯田市になり、いつの間にか行司役として豊橋市長も加わるなど、当初の想定以上の交流事業に発展しています。





次回開催日程

■開 催 日：令和3年10月24日（日）
■開催場所：長野県境：国盗り公園
■問い合わせ先
・団体名
峠の国盗り綱引き実行委員会
・住所
静岡県浜松市天竜区水窪町奥領家3281-8
・電話番号：053-987-2100
・MAIL：kankou-misakubo@aioros.ocn.ne.jp
・URL：https://www.misakubo.net

開催DATA

自治体名	静岡県浜松市
自治体人口	801,291人 ※令和2年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	峠の国盗り綱引き実行委員会
開催回数	32回
開催日	毎年：10月第4日曜日
開催場所	長野県境：国盗り公園
観客数	約600 ～ 800人

次点

第25回
ふるさとイベント大賞

第17回 美山かやぶきの里雪灯廊



「美山かやぶきの里雪灯廊」は、京都府のおよそ中央に位置する南丹市の美山町で、積雪のある1月末から2月初めにかけて実施されるイベントです。かやぶき屋根の民家などがライトアップされ、厳しい自然と人々の暮らしが織りなす冬の里山の美を感じることができます。

会場となる美山町北集落「かやぶきの里」は、かやぶき屋根の民家が立ち並び、昔話の世界のような日本の原風景が広がります。その伝統的技法や歴史的景観が保存され、国の伝統的建造物群保存地区に指定されています。

また、町内には国の「水の郷百選」に選ばれた清流美山川や、西日本有数の貴重な自然が残る芦生原生林など、豊かな自然が今なお残っており、町内全域が「京都丹波高原国定公園」に指定されています。

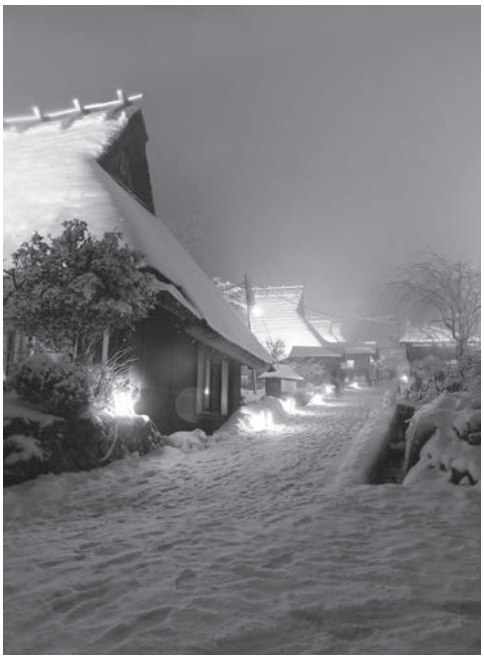
イベントでは、約20棟のかやぶき民家のライトアップをはじめ、集落内に設置された合計約300基の花灯籠やLED灯籠、竹灯籠、提灯の明かりが雪景色をやさしく照らし出します。訪れたお客様が雪で灯籠を作ることができ、多数の手作り雪灯籠が集落の前に立ち並びます。

例年、初日と最終日には冬の打ち上げ花火が澄んだ空気の夜空を彩り、集落内にある知井八幡神社拝殿では日本舞踊の奉納が行われます。

冬の屋外イベントのため、温かい食事や飲み物を中心に販売する屋台村を設置。さらに、美山の特産品などを買うことができるお土産どころも夜間特別営業します。

まるで水墨画のような風景の冬の美山町へぜひお越しください。

※実施内容は変わる場合がございますので詳しくはウェブサイト等でご確認ください







次回開催日程

■開 催 日：例年1月最終土曜から2月最初の土曜の8日間
■開催場所：京都府南丹市美山町北　かやぶきの里
■問い合わせ先
・団体名
　一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会
・住所
　京都府南丹市美山町安掛下23
・電話番号：0771-75-1906（水曜定休）
・MAIL：miyama@kyoto-miyama.jp
・URL：http://www.yukitouro.jp/

開催DATA

自治体名	京都府南丹市
自治体人口	31,511人 ※令和2年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	美山かやぶきの里雪灯廊実行委員会
開催回数	17回
開催日	令和3年1月30日～2月6日 ※緊急事態宣言の発出により中止となりました。
開催場所	京都府南丹市美山町北　かやぶきの里
観客数	10,000～15,000人

次点

第25回
ふるさとイベント大賞

たるまるカフェ 森のコンサート Vol.12



黒滝村は、奈良県のほぼ中央に位置し、「奈良のへそ」と呼ばれる森林（もり）の村です。吉野杉の産地として古くから林業が盛んで、その豊かな自然と源流を活かして栄えてきました。

明治時代に建てられた旧役場庁舎は、当時の吉野地方では大変珍しい洋風建築物で、奈良県指定文化財となっています。2階には、黒滝村に伝わる伝統文化、酒だる作りに用いる吉野杉の「樽丸（たるまる）」や黒滝袴（くろたきばかま）などの貴重な民俗資料がそろい、「黒滝村民俗資料館」としての役目も担っています。

この貴重な建物を多くの人に知ってもらいたく、平成28年度より「森のコンサート」を年3～4回開くこととなりました。そのときだけオープンするワンコインカフェは、樽丸にちなんで「たるまるカフェ」と名づけられ、コンサートの名物となっています。



コンサートの出演者には、奈良県を中心とした関西各地や全国で活躍しているアーティストを招いており、内容もクラシックからジャズ、ポップス、ロック、懐メロと幅広いジャンルから選んでいます。

第12回は「懐かしの歌謡ショータイム～昭和の歌・平成の歌」と題して開催。来場者も一緒になって歌える「歌声喫茶」コーナーを設け、歌い手と来場者が共に楽しんだコンサートとなりました。







次回開催日程

■開 催 日：令和3年10月中旬
■開催場所：黒滝村旧役場庁舎
■問い合わせ先
・団体名
黒滝村
・住所
奈良県吉野郡黒滝村大字寺戸77番地
・電話番号：0747-62-2031
・MAIL：kuro_ks@vill.kurotaki.lg.jp
・URL：http://www.vill.kurotaki.nara.jp

開催DATA

自治体名	奈良県黒滝村
自治体人口	670人 ※令和2年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	黒滝村
開催回数	13回
開催日	令和元年9月15日（日）
開催場所	黒滝村旧役場庁舎
観客数	約60人

次点

第25回
ふるさとイベント大賞

松江武者行列



「松江武者行列」は、松江開府の祖、堀尾吉晴公とその息子・忠氏公、堀尾衆一行が松江城に入城する様子を再現した絢爛豪華な時代絵巻です。勇壮な武者や色鮮やかな姫などに扮した市民が大勢参加し、松江城を目指して桜咲く松江市内を練り歩きます。

単なる仮装パレードではなく、本番までに参加者が行列や演舞の練習会を計4回行うことで、築城された400年前にタイムスリップしたかのような「凛」とした行列を披露します。

桜舞う中での勇壮な武者行列は、春の城下町の風物詩として、市民や観光客に知名度が浸透し、毎年の観光イベントとして当日は多くの観客でにぎわいます。特に日本舞踊家・藤間信乃輔氏の指導による演舞披露は見どころとなっています。

平成15年から始まり、平成17年までは秋に開催していましたが、平成19年からより多くの観光客が桜を見に訪れる4月の第1土曜日に開催することになりました。

松江武者行列は「モノづくり」「ヒトづくり」「マチづくり」をテーマとし、市民が甲冑や衣装を手づくりしたり、率先して行列運営に参加したりしているのが特徴です。

中でも、平成19年に参加された方が中心となって組織した市民団体「松江武者応援隊」は、行列の運営補助や観光PRなど様々な形で貢献しています。このほか、行列に約200人、着付けボランティアに約50人、参加者が身に着ける「小物入れ」の作製に約20人を募集しており、こうした市民の皆さんにも支えられています。

練習会やワークショップが参加者同士の交流の場にもなっており、今では行列を基点として、おもてなしの活動や武者姿の「まつえ時代案内人」によるガイドなど、年間を通じて「松江は武者のまち！」づくりが広がっています。







次回開催日程

■開 催 日：令和4年4月第1土曜日（予定）
■開催場所：松江市　天神ロータリー～国宝松江城
■問い合わせ先
・団体名
　松江武者行列実行委員会
・住所
　島根県松江市中原町19（松江観光協会 内）
・電話番号：0852-27-5843
・MAIL：mail@kankou-matsue.jp
・URL：https://www.musha-gyoretsu.jp/index.html

開催DATA

自治体名	島根県松江市
自治体人口	200,772人 ※令和2年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	松江武者行列実行委員会
開催回数	15回
開催日	4月の第1週目の土曜日
開催場所	松江市　天神ロータリー～国宝松江城
観客数	130,000人

次点

第25回
ふるさとイベント大賞

住民参加創作ミュージカル
「群青～濱田誕生、そして明日へ～」



過疎・少子高齢化が進む島根県浜田市にある「石央文化ホール」は1995年の開館以来、「郷土学習なくして郷土愛は育たず、郷土愛なくして郷土の発展なし」の理念に基づいて、地域文化の育成に取り組んできました。その事業の一つとして、地域の歴史・伝承・民話などを題材にした創作ミュージカルを、地域の文化力を結集して隔年で上演し続けています。

特に、次代を背負う青少年の郷土愛の成長こそ本事業の最重要課題と考え、高校生以下の入場料を無料としています。



13回目の上演となった2019年は、浜田開府400年を記念して、江戸時代からこの地方の発展に寄与した先人たちの偉業を、小学4年生でもわかるミュージカルに仕立てました。小学生から90歳までの男女60人の出演者と、裏方として40人の市民の協力を得て上演し、1524人の観客に多大な感銘を与えました。ドラマのあらすじは次の通りです。

東京で働いている藤村宗一が浜田に帰省し、高校時代の友人で家業の水産業を継いだ青木、市役所勤務の横田、小学校教員の中村と語り合います。藤村は、開府以来この地で懸命に働いてきた先人たちの生きざまを学び、それを通して故郷への愛着がふつふつと湧き上がり、浜田で働くことを決意します。



参加した人々は、上演までに87回の稽古を重ね、それを通して年齢差を超え、職業を超え、一つの目標に向かって協同しました。絆を結び、創造する喜びを共有し得たことは、参加者の宝であると同時に、地域活性化へのエネルギー源となっています。

この上演に併せて、全国の「浜田姓」の人たちと浜田藩ゆかりの人たちを招待するなどして「関係人口」の創出も図りました。

次回の創作ミュージカルは、江戸時代の治水事業に奮闘する下級武士の生涯を描いた作品が構想されています。



次回開催日程

■開 催 日：令和4年度
■開催場所：石央文化ホール・大ホール
■問い合わせ先
・団体名
公益財団法人浜田市教育文化振興事業団 石央文化ホール
・住所
島根県浜田市黒川町4175番地
・電話番号：0855-22-2100
・MAIL：hamabun@tx.miracle.ne.jp
・URL：http://www.sekio.jp/

開催DATA

自治体名	島根県浜田市
自治体人口	52,605人 ※令和2年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	公益財団法人浜田市教育文化振興事業団　石央文化ホール
開催回数	13回
開催日	令和元年10月11日（金）、12日（土）
開催場所	石央文化ホール・大ホール
観客数	1,524人

次点

第25回 ふるさとイベント大賞

つやまエリア オープンファクトリー

岡山県津山市は、古くから県北・美作地域の経済・文化の中心として栄え、近年では企業誘致による内陸工業都市としても発展してきました。しかし、人口は1995年をピークに漸減傾向が続いています。

そうした中、本市は魅力的な雇用を創出し、地域経済を発展に導くため、2015年に「つやま産業支援センター」を設置しました。同センターでは「現場主義」に基づき積極的な企業訪問をベースとしたサポート活動を行っています。その中で、企業から寄せられる最も多い課題の一つは「人材の採用」です。

当地域では、高校卒業後に進学等でこの地を離れる若者が多く、いかに卒業前に地域の魅力に気づいてもらうかが、将来を見据えたうえで喫緊の課題となっています。

そこで、地域の子どもたちに魅力ある地域の企業・産業を楽しく知ってもらおうと、2018年に「つやまエリアオープンファクトリー」を岡山県美作県民局と共同で開催しました。このイベントでは、ものづくりの現場に直接足を運んでもらうことでその魅力を体感できるよう、工場や企業などの現場を公開するとともに、ものづくり体験やバスツアー、スタンプラリーを企画しました。

参加企業は津山圏域定住自立圏の1市5町から募集し、スタンプラリー達成者への景品も参加企業から提供してもらいました。

企業を募集した1市5町では、全ての小中高生にガイドブックを配布してイベントの周知に努め、事前申し込み開始日に満員となる事業者も見られました。イベント当日は、子どもたちが真剣なまなざしで工場を見学し、ものづくりの体験では楽しそうな笑顔もあふれていました。

2019年開催の第2回には54事業所が参加し、第1回の1756人を大きく上回る2380人の来場者を迎えました。事業者、来場者とも満足度の高い事業となっています。











次回開催日程

■開 催 日：令和3年8月20日（金）、21日（土）
■開催場所：津山圏域（津山市、鏡野町、勝央町、奈義町、久米南町、美咲町）
■問い合わせ先
・団体名
つやま産業支援センター
・住所
岡山県津山市山北663
・電話番号：0868-24-0740
・MAIL：info@tsuyama-biz.jp
・URL：https://www.tsuyama-biz.jp/openfactory/

開催DATA

自治体名	岡山県津山市
自治体人口	99,821人 ※令和2年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	つやま産業支援センター
開催回数	2回
開催日	令和元年7月26日（金）～27日（土）
開催場所	津山圏域（津山市、鏡野町、勝央町、奈義町、久米南町、美咲町）
観客数	直近開催分参加者数　2,380人

次点

第25回 ふるさとイベント大賞

とびしまウルトラマラニック in せとうち・呉

【企画の概要】

「とびしまウルトラマラニック in せとうち・呉」は、広島県呉市と愛媛県今治市の七つの島が七つの橋でつながった、通称「安芸灘とびしま海道」の全ての地域を舞台に、100㌔のコースをピクニック感覚で走るランニングイベント。

全国から集まるランナーの数に対して、とびしま地域は宿泊施設が圧倒的に不足していることから、2019年大会ではイベント民泊の制度を活用し、地域の民家にも宿泊してもらった。



【開催経緯】

大会実行委員長の高島俊思は、地域おこし協力隊として呉市とびしま海道下蒲刈島に家族と共に移住した。3年間の活動を終えた後も、地域を元気にするための活動を行い、その中で島しょ部ならではの課題を多く感じた。特に、少子高齢化は待ったなしの難題であった。

この難題に向き合う中で、スポーツイベントを開催して全国から人を呼び込むことにより、いわゆる関係人口を創出し、「移住・定住」へとつなげることが課題解決への道となると考えた。

【コンセプト】

「マラニック」は「マラソン」＋「ピクニック」の造語で、競争ではなく地域と交流を持ちつつ、いっぱい食べて楽しむという要素を盛り込んでいる。島と橋を全部回るコースをつくり、他のウルトラマラソンにはない絶景、かんきつなどの特産品と郷土料理、満点の星空、そして想いの詰まったエイドステーションでのおもてなしで、大会に関わる全ての人が笑顔になり、「応援した島民と限界に挑んだランナーが、おじいちゃんと孫のような関係になる大会」がコンセプト。島民が選手と触れ合う中で改めて島の魅力に気づき、自信と誇りを取り戻すことを目指した。



【参加者（選手）】

全国に約1000万人いるといわれているマラソン人口のうち、特に「旅ラン」という言葉があるように、走るために地方に行くランナーをターゲットとした。







次回開催日程

■開 催 日：令和3年12月12日（日）
■開催場所：安芸灘とびしま海道（広島県呉市川尻町、下蒲刈町、蒲刈町、豊浜町、豊町及び愛媛県今治市関前岡村）
■問い合わせ先
・団体名：とびしまウルトラマラニック実行委員会
・住所：〒733-0035 広島県広島市西区南観音1-9-6 3F（事務局）
・電話番号：082-961-4002
・MAIL：gyomu@itadaki.jp
・URL：http://tobishima-ultramaranic.com/

開催DATA

自治体名	広島県呉市
自治体人口	218,004人 ※令和2年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	とびしまウルトラマラニック実行委員会
開催回数	3回
開催日	平成30年12月9日、令和元年12月8日、令和2年11月14日～29日（オンライン開催）
開催場所	安芸灘とびしま海道（広島県呉市川尻町、下蒲刈町、蒲刈町、豊浜町、豊町および愛媛県今治市関前岡村）
観客数	500人

次点

第25回 ふるさとイベント大賞

妖怪祭り



水木しげるさんの漫画「ゲゲゲの鬼太郎」に登場する妖怪「児啼爺（こなきじじい）」の伝承地が、徳島県三好市山城町上名であることが2000年に明らかになりました。そこで、地域のボランティア団体「藤川谷の会」が中心となり、児啼爺の石像建立を呼びかけたところ、作家の京極夏彦さんをはじめ全国から支援を頂き、2001年に完成しました。石像の完成を祝う除幕式を行ったところ、200人もの参加があったので翌年から秋の紅葉に合わせて祭りを開催してきました。

当初は、ゲゲゲの鬼太郎に出ている妖怪の着ぐるみを鳥取県境港市観光協会から借りてパレードをしていましたが、着ぐるみの製作を手作りで始めて少しずつ数を増やしていきました。今では子供用も含めると32の着ぐるみを保有しています。

また、国道から会場までの道路沿いには木彫りの妖怪像15体が所々に設置されており、会場に行くまでの間も楽しむことができます。

2019年の第19回妖怪祭りは11月17日の午前11時にオープンし、藤川谷の会の会員がふんする山伏が、児啼爺や山ジチ、カッパなどを従えてほら貝が鳴り響く会場内を邪気払いした後、地元小学校の児童と保育所園児に担がれた竜神みこしが会場内を練り歩きました。



その後、「妖怪バンド」のライブ、音楽ユニットと町内ダンスチームのコラボ、アニメソングシンガーの熱唱、和太鼓の演奏と続き、会場内は次第に盛り上がりクライマックスに近づきます。そして、「大歩危妖怪村一座」による妖怪伝承の人形劇（舞台、人形、演者など全て手作り）が上演され、最後は子供と大人が妖怪の着ぐるみで会場内を歩き、小さな子の泣き声と大人の笑い声が響く中で閉会となりました。







次回開催日程

■開 催 日：令和3年11月21日（第3日曜日）
■開催場所：三好市山城町上名236-3
■問い合わせ先
・団体名
　藤川谷の会
・住所
　三好市山城町西宇1573-1
・電話番号：0883-84-1155
・MAIL：yamasirocha@ctm.ne.jp

開催DATA

自治体名	徳島県三好市
自治体人口	24,770人 ※令和2年12月末の住民基本台帳人口
主催団体	藤川谷の会
開催回数	19回（昨年の20回はコロナウイルスのため中止）
開催日	令和元年11月17日（日）
開催場所	三好市山城町上名236-3
観客数	800人

次点

第25回
ふるさとイベント大賞

瀬戸内かみじま アートプロジェクト2019 防波堤ペインティング



瀬戸内海の「しまなみ海道」のすぐ隣りに位置する25の離島で構成される上島町（かみじまちょう）は、島ならではの景観に寄り添ったアート作品を創出するため、「防波堤アート事業」を実施しました。全国の若手アーティストを対象に作品を公募し、応募のあった全47作品の中から弓削島、生名島、岩城島に制作する3作品を選定しました。審査員は、日本を代表するアートディレクターの森本千絵氏、尾道市立大学美術学科教授の桜田 知文氏、愛媛県美術館の八木 誠一氏、三浦工業ミウラート・ヴィレッジ学芸員の上岡 千恵氏の4人です。



選定された作品およびアーティストは以下のとおりです。

【弓削島防波堤】　作品名：天の花（そらのはな）　アーティスト：日月 美輪さん（日本画家）

【生名島防波堤】　作品名：みんなのクジラ　アーティスト：武田 充生さん（彫刻家）

【岩城島防波堤】　作品名：海のおとを聴く　アーティスト：菅 真佑紀さん（イラストレーター）







制作活動は11月下旬～12月上旬と寒い時期に行われましたが、アーティストには温かいコーヒーやパン、お菓子、島のかんきつなどを地域の人たちがたくさん差し入れてくれました。制作には、現場を訪れた地域住民や地元の弓削高校・弓削商船高等専門学校の生徒がボランティアとして参加。また、子供たちを集めて制作ワークショップも開催されるなど、アーティストと地域が一体となった作品作りが行われました。

アーティストと地域住民が交流しながら制作したアート。それらがある場所は、観光客だけでなく地元の人にも愛されるスポットになりました。近くにお越しの際には、ぜひともお立ち寄りください。

次回開催日程

■開 催 日：未定
■開催場所：未定
■問い合わせ先
・団体名
　上島町 産業振興課
・住所
　愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1037-2
・電話番号：0897-77-2252
・MAIL：shoko-kanko@town.kamijima.ehime.jp
・URL：https://www.kamijima.info

開催DATA

自治体名	愛媛県上島町
自治体人口	6,556人　※令和2年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	上島町
開催回数	1回
開催日	令和元年7月25日（木）～ 12月8日（日）
開催場所	弓削島、生名島、岩城島
観客数	制作時：300人　来訪者：年間約9,000人

次点

第25回
ふるさとイベント大賞

全国高等学校漫画選手権大会（まんが甲子園）

「まんが甲子園」は、まんがを貴重な文化資源と位置づけ取り組んできた高知県が、平成4年から高校生が主役となるイベントとして開催し、高校生の全国的な文化系競技大会としての地位を確立している。平成17年には「第9回ふるさとイベント大賞」を授与していただき、広く全国に紹介された。それ以降も、常に発展・進化を続けている。

平成19年（第16回大会）からは、大手出版社編集部による才能ある高校生のスカウトシップ制度を導入したり，地方在住の漫画家志望の若者の持ち込みを受け付けしたりして、プロデビューへの支援を開始した。また、平成26年（第23回大会）以降、海外への「まんが王国・土佐」の情報発信や高校生の国際交流を目的に、韓国、台湾、シンガポールと徐々に海外校の参加を広げている。競技を通じて技術面で刺激し合ったり、テーマの捉え方などで文化や価値観の違いを学んだりするとともに、大会終了後の交流会などで親睦や相互理解を深めている。こうした取り組みにより、海外においてもまんが王国・土佐として認知度を高めている。



さらに、近年はインターネット生配信の仕組みも活用し、大会当日の本選会場の様子を全国に広くアピールしている。コロナウイルス感染拡大により各種大会の中止が相次ぐ中でも、こうした仕組みを活用し、令和2年には参集して行うまんが甲子園に替え、1枚まんがのコンテストや、応援企画盛りだくさんの生配信への参加がウェブ上でできる「まんが甲子園増刊号」を実施し、高校生の発表の場、交流の場を確保するとともに、まんが王国・土佐の存在感を強く打ち出すことができた。



こうした取り組みを重ねる中で、今年は30年目の節目の年を迎えることとなり、新しい取り組みへの挑戦や国内外に向けたPRの強化を行い、未来に向けたまんが王国・土佐の発展・進化を続けていく。

高知県







次回開催日程

■開 催 日：令和3年8月6日（金）～ 7日（土）
■開催場所：高知市文化プラザかるぽーと、
高知県立高知城歴史博物館
■問い合わせ先
・団体名
まんが王国・土佐推進協議会
・住所
高知県高知市丸ノ内1丁目2-20
・電話番号：088-823-9711
・MAIL：141701@ken.pref.kochi.lg.jp
・URL：https://mangaoukoku-tosa.jp/

開催DATA

自治体名	高知県
自治体人口	688,583人 ※令和2年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	高知県、まんが王国・土佐推進協議会
開催回数	28回（令和2年度は特別版として「まんが甲子園増刊号」を開催）
開催日	令和元年8月3日（土）～ 4日（日）
開催場所	高知市文化プラザかるぽーと、高知県立高知城歴史博物館
観客数	会場：3,368人、ネット視聴：42,325人

次点

第25回 ふるさとイベント大賞

日高メシ ふぇすてぃばる



土佐二宮小村神社は、大きな杉やヒノキに覆われた参道が200㍍も続き、神殿には国宝の太刀も奉納されています。ここは古くから人が集い交流の場となっていましたが、少子高齢化と過疎化が進んで近年は神祭の参加者も少なくなり、「寂しい」といった声も聞かれました。また、日高村のお年寄りは村外のイベントに行くこともめったになく、各地のおいしい食べ物を味わう機会も多くありません。

そこで、県内のおいしいものを集めて地域の住民に喜んでもらうとともに、小村神社のにぎわいも取り戻したいとの思いで始めたのが「日高メシふぇすてぃばる」です。NPO法人発足から10年目にみんなで楽しめるイベントを開催したいという思いや、地域に役立ちたいという若者の思いも重なり、令和2年で7回目の開催となりました。

神社の参道には、特産のフルーツトマトを使ったオムライスを提供する村のイベント「オムライス街道」参加店のオムライスをはじめ、パンやパイ、シホンケーキ、地域の果物を使ったアイスクリームなどの「おいしいもの」のほか、手作り雑貨や土佐打ち刃物、土佐和紙の置き物などの出店が並びます。境内では、ステージを設置して大学生・高校生のサークルが歌や踊りを披露したり、日高環頭太鼓を演奏したり、迫力あるパフォーマンスが続きます。そして、日が暮れると参道がライトアップされ、小学生が作った灯籠の明かりで彩られます。

来場者が参加するお楽しみコーナーでは、「小村椅子探そう」や「オムライススプーンづくり」が人気です。椅子探そうは、いろいろな形の椅子に文字を貼って参道に隠し、その文字を集め並べ替えて言葉をつくります。当たりなら、はずれ無しのおみくじが引ける仕組みです。

昨年は2000人近い来場者があり、80歳のおばあちゃんは「このにぎわいは、嫁に来た頃を思い出す。来年もやってよ」と満足そうに話してくれました。毎年楽しみにしてもらっているイベントなので、そのニーズに合わせて続けていきたいと思います。









次回開催日程

■開 催 日：令和3年11月14日（日）
■開催場所：土佐の国二宮小村神社参道
（高知県高岡郡日高村下分1794）
■問い合わせ先
・団体名
NPO法人日高わのわ会
・住所
高知県高岡郡日高村沖名3-2
・電話番号：0889-24-4004
・MAIL：hidakawanowa@ca.pikara.ne.jp
・URL：http://wanowa-hidaka.com/

開催DATA

自治体名	高知県日高村
自治体人口	4,980人 ※令和2年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	NPO法人日高わのわ会
開催回数	7回
開催日	令和2年11月15日（日）
開催場所	小村神社参道と境内
観客数	1,800人

次点

第25回
ふるさとイベント大賞

第31回 とばた菖蒲まつり2019



北九州市制25周年を記念し、戸畑区民のまつりとして始まった「とばた菖蒲(しょうぶ)まつり」は2019年で31回目となり、「戸畑祇園大山笠」（ユネスコ無形文化遺産）、「くきのうみ花火の祭典」とともに戸畑区三大まつりの一つになっています。

開催場所の「夜宮公園」は、戸畑区のほぼ中央にある穏やかな丘陵地に広がる自然豊かな公園です。春先には梅や桜、初夏には花菖蒲、戸畑あやめ、秋には紅葉など、一年を通じて自然を楽しむことができる区民の憩いの場所です。なかでも、6月初旬に約35種2万本の花菖蒲が色とりどりに咲き誇る様子は壮観で、区民の誇りともなっています。公園周辺には、「なんじゃもんじゃ（ヒトツバタゴ）」の並木道や「夜宮の大珪化木」（国天然記念物）、「旧松本家住宅」（国指定重要文化財）など多くの見どころもあります。

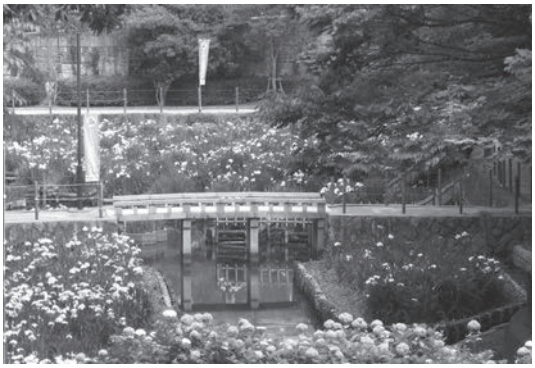
とばた菖蒲まつりは、花菖蒲の満開時期に合わせ毎年6月初旬に開催されています。地元の婦人会をはじめ、老人クラブ、自治会、中学・高校・大学生など、戸畑区内で頑張っている幅広い世代によって支えられています。まつりのテーマは「しっとり、あでやか、とばたの菖蒲」。2019年は、約7万5000人の来場者に花菖蒲の魅力を満喫してもらいました。また、戸畑区内で活躍する方々の発表の場としてステージイベント（出演数17団体）が行われたほか、北九州市の食の魅力を堪能できるご当地グルメコーナーや地元団体によるバザー（出展数20団体）、蚤(のみ)の市なども開かれました。



ここ数年は、若い世代に積極的な参加を促すことでイベント全体を活気づけるべく、区内の中学・高校の文化部活動の発表やボランティア活動の場として活用してもらうなど、様々な試みを行ってきました。まつりでの交流は、地域の活力に大いに影響を与えています。

今後も、花菖蒲と夜宮公園の魅力、地元の食の魅力を通じて、戸畑区のにぎわいづくりを担う一大イベントとなるよう、企画・実施していきたいと考えています。







次回開催日程

■開 催 日：令和3年6月6日（日）
※新型コロナウイルス感染症の感染状況により、中止の場合もあります

■開催場所：戸畑区「夜宮公園」周辺一帯
（北九州市戸畑区夜宮1・2丁目）

■問い合わせ先
・団体名：とばた菖蒲まつり実行委員会
・住所：北九州市戸畑区千防一丁目1番1号
・電話番号：093-871-2316
・MAIL：tobata-soumu@city.kitakyushu.lg.jp
・URL：https://www.city.kitakyushu.lg.jp/tobata/file_0093.html

開催DATA

自治体名	福岡県北九州市
自治体人口	区民 56,931人 （市民 944,496人）　※令和2年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	とばた菖蒲まつり実行委員会
開催回数	31回
開催日	令和元年6月8日（土）～ 9日（日）
開催場所	戸畑区「夜宮公園」周辺一帯（北九州市戸畑区夜宮1・2丁目）
観客数	約75,000人

次点

第25回
ふるさとイベント大賞

TAGAWAコールマイン・フェスティバル ～炭坑節まつり～

炭坑節まつりは、過酷な炭坑労働の中で先人たちが築いてきたふるさと田川の歴史や文化を次世代に継承するとともに、炭坑節発祥の地である田川を全国に発信し、交流人口の拡大を図り、地域の活性化を図ることを目的として実施している。平成18年から毎年11月の第1日曜日とその前日の土曜日に開催しており、令和元年度で14回目となった。

まつりの1日目は、炭坑節を様々な形で表現する「炭坑節の歌と踊り」や、田川市郡8市町村すべての幼稚園・保育所の児童と小中高生が書いた2万本以上のメッセージがともされる「キャンドルナイト」などが行われる。

2日目は、郷土民謡などを披露する「踊りの祭典」や「炭坑節コンテスト」に続き、「炭坑節総踊り」がまつりのフィナーレを飾る。総踊りでは、炭坑節の歌詞にも登場する「香春岳」を眺めながら、田川を象徴する「二本煙突」や「竪坑櫓（たてこうやぐら）」のもとで、趣向を凝らした衣装を身にまとった約1万人が幾重もの輪を形成し、心を一つにして踊る。



このまつりは、田川商工会議所をはじめ、田川市役所、田川青年会議所、田川広域観光協会、福岡県立大学、ボランティア団体、その他各種団体が実行委員会を組織して企画・運営している。イベントには保育園から大学生、さらには高齢者まで幅広い世代が参加しており、田川市のみならず田川地域の多くの住民たちによって支えられている。

まつり当日は、飲食物や田川の特産品の販売、フリーマーケット等の店舗も数多く並び、田川地域内外の多くの人出でにぎわう。回数を重ねるごとに内容も充実し、名実ともに田川地域のまつりとして定着している。









次回開催日程

■開 催 日：令和3年11月6日（土）、7日（日）の予定
■開催場所：田川市石炭記念公園
■問い合わせ先
・団体名
TAGAWAコールマイン・フェスティバル実行委員会事務局
・住所
福岡県田川市中央町1番1号
（田川市建設経済部産業振興課内）
・電話番号：0947-85-7147
・MAIL：miryoku@lg.city.tagawa.fukuoka.jp
・URL：http://www.joho-tagawa.jp/coalmine/

開催DATA

自治体名	福岡県田川市
自治体人口	46,781人 ※令和2年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	TAGAWAコールマイン・フェスティバル実行委員会
開催回数	14回
開催日	毎年11月の第一日曜日とその前日
開催場所	田川市石炭記念公園
観客数	約180,000人

次点

第25回 ふるさとイベント大賞

佐賀さいこう！企画甲子園

「あなたが一番熱く語りたい佐賀の魅力は何ですか？」
「あなたが知事だとしたら、最高！と思える未来の佐賀県を作るために何をしますか？」

県では、若者の意識を「佐賀は何もない」から「佐賀さいこう！」にするため、佐賀の魅力を語り、その魅力を活かした企画で競い合う企画コンテストを開催しています。若い視点で提案される企画は、佐賀の特産品に着目したものや、佐賀弁などの文化に着目したものなど、幅広い内容で、同世代の若者たちが佐賀をより深く知るきっかけにもなっています。

1次審査（書類審査）、2次審査（プレゼン）を通過した8チームは、1泊2日のワークショップ合宿に参加します。現役クリエイターの講義を受講し、企画提案をより実効性の高いものに磨き上げていきます。合宿後は大学生や若手の社会人をチューターとして配置し、コンテストまで多方面からのアドバイスを行っています。

最終の企画コンテストでは、佐賀県知事、佐賀県出身者の現役クリエイター等を審査員に招き、プレゼンを行い、最優秀企画賞、優秀企画賞、企画賞を選定します。

第3回佐賀さいこう！企画甲子園では、武雄高校の「佐賀の温泉伝えたいっ隊」が最優秀企画賞に選ばれました。この企画は、佐賀の温泉の魅力を、普段あまり温泉になじみの薄い若者世代へ伝えるための企画です。

また、企画コンテスト後も、提案された企画の中で、実効性が高く優秀な企画については、高校生が実現するためのフォローを県が行っています。

過去のコンテストの様子は下記URLよりご覧いただけます。ぜひご覧ください。











次回開催日程

■開 催 日：令和3年12月（予定）
■開催場所：佐賀城本丸歴史館（予定）
（佐賀県佐賀市城内2丁目18-1）
■問い合わせ先
・団体名
佐賀県 地域交流部 さが創生推進課
・住所
佐賀県佐賀市城内1丁目1番59号
・電話番号：0952-25-7505
・MAIL：sagasousei@pref.saga.lg.jp
・URL：https://www.sagajikan.com/koshien/

開催DATA

自治体名	佐賀県
自治体人口	808,074人 ※令和2年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	佐賀県 地域交流部 さが創生推進課
開催回数	3回
開催日	令和元年12月15日（日）
開催場所	佐賀城本丸歴史館（佐賀県佐賀市城内2丁目18-1）
観客数	約100人

次点

第25回
ふるさとイベント大賞

長崎居留地まつり

かつて長崎市は幕府が直轄する唯一の海外交流の窓口であり、文化や情報の発信拠点となっていました。全国から多くの人がこの地を訪れ、医学、蘭学、兵学などを学び、我が国の近代化を導く原動力になったのです。やがて鎖国が解かれ、安政の開国により東山手、南山手、大浦各地区が外国人、特に西洋人の居留地となり、明治から大正期にかけて大いに栄えました。

「長崎居留地まつり」は、旧外国人居留地の東山手、南山手、大浦を舞台に毎年9月に開催されています。居留地で生活した人々や、我が国の近代化に大きく貢献した長崎の歴史的役割を見つめ直し、郷土への誇りを醸成することで歴史を生かしたまちづくりを進めるのが目的で、市民と行政が一体となり、それまで各地域で開催されていたイベントを統合して平成13（2001）年にスタートしました。

最大の特長は、地域で歴史をつくりながら暮らしている人々が主役であり、誰もが気軽に参加できるということです。地域住民や市民団体が企画を提案する形式で実施され、▽世界遺産の構成資産となった「大浦天主堂での歌謡祭」▽我が国の近代化に多大な功績を遺したトーマス・グラバーを顕彰する「グラバー顕彰式」▽歴史ある坂道を子供も大人も一緒になって駆け上がる「グラバー坂かけ上がり大会」－といった地域固有の歴史的建造物等を活用した独創的なイベントが各所で行われます。

最近では、まつりに参加する地域外の若者が増え、この地域に愛着を持って様々な地域活動を始めたり、地域課題になりかけている空き家等を活用して出店したりするなど、歴史を生かしたまちづくりの成果が目に見える形で感じられるようになってきました。











次回開催日程

■開 催 日：令和3年9月18日（土）～ 20日（月・祝）
■開催場所：東山手、南山手、大浦各地区
■問い合わせ先
・団体名
長崎居留地まつり実行委員会
・住所
長崎県長崎市桜町4番1号 商工会館4階
・電話番号：095-829-1426
・URL：https://nagasakiforeignset.wixsite.com/home

開催DATA

自治体名	長崎県長崎市
自治体人口	411,505人 ※令和2年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	長崎居留地まつり実行委員会
開催回数	25回
開催日	令和2年9月19日（土）～ 21日（月）
開催場所	東山手、南山手、大浦各地区
観客数	5,000人

次点

第25回 ふるさとイベント大賞

結びのまつり
～人を想い　土地を想い　神を想う～

都農町の「結びのまつり」は、踊りや文化活動、よさこいなどの芸能を通して全国各地から人々が集う「人と土地と神様を結ぶ感謝のまつり」で、神武天皇の出立の神話が残る日向国一之宮都農神社を拠点に、建国記念の日に近い週末に開催している。

自然の恵み豊かな神話の源流・宮崎県の魅力を十分に発信し、全国から集まる方々の心のふるさととして「都農町ファン」を増やすと同時に、歴史・文化の継承や次世代の育成、地域の活性化を図り、そのエネルギーを全国各地へ持って帰ってもらうことを目指している。

子どもから大人までが所属している地元のよさこい団体「弥勒連」がホストチームとして中心になり、宮崎県地域づくりネットワーク協議会の児湯ブロック、都農町役場、都農神社、道の駅つの、中高生のボランティア（ジュニアリーダー）、地域住民などと連携を取り合って運営している。



前夜祭の奉納演奏・演舞からは、地元団体「若風会」が主催する「キャンドルナイト」で境内が幻想的に照らされ、2日目の本祭とは違う楽しみが味わえるのも魅力のひとつである。



結びのまつりの主な内容は次の通り。

①よさこいを中心とした踊り
（フラダンスなど、趣旨に合えばジャンルは問わず）の披露や奉納
②宮崎大学地域創成学部や都農町などと連携した都農町の魅力発信
③前夜祭にて若風会主催の「キャンドルナイトinつの」の開催
④前夜祭参加者には、地元の主婦による手作り料理でおもてなし交流会開催







次回開催日程

■開 催 日：令和4年2月12日（土）、13日（日）の予定
■開催場所：日向国一之宮都農神社、道の駅つの
■問い合わせ先
・団体名
結びのまつり実行委員会
・住所
宮崎県児湯郡都農町大字川北11798　藤見公園内
・電話番号：0983（25）5255
・MAIL：musubi.matsuri@gmail.com
・URL：https://musubi-matsuri.localinfo.jp

開催DATA

自治体名	宮崎県都農町
自治体人口	10,457人 ※令和2年12月末現在の住民基本台帳人口
主催団体	結びのまつり実行委員会
開催回数	5回（第５回は新型コロナ感染拡大防止のため、無観客で奉納演舞のみ）
開催日	毎年2月建国記念の日に近い週末に開催（土曜日：前夜祭、日曜日：本祭）
開催場所	日向国一之宮都農神社（メイン会場）、道の駅つの（サテライト会場）
観客数	延べ約1,500人

地域づくり5月号 特集編（通巻383号）令和2年度ふるさとイベント大賞 令和3年5月1日 一般財団法人 地域活性化センター発行


宝くじ桜


一輪車


ドリームジャンボ絵本

宝くじは、

図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、少子高齢化対策や災害に強い街づくりまで、さまざまなかたちでみなさまの豊かな暮らしに役立っています。


救急普及啓発広報車


遊具



移動採血車


青色回転灯パトロール車



下水道啓発パンフレット


自然公園案内映像展示設備

一般財団法人日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

一般財団法人 日本宝くじ協会
https://jla-takarakuji.or.jp/